

文京区アカデミー推進計画 素案
(たたき台)

文京区アカデミー推進計画 目次（案）

Ⅰ 総論

第1章 文京区アカデミー推進計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と目的	1
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2

第2章 文京区アカデミー推進計画の考え方

1 計画の基本理念	3
2 計画の基本目標	4
3 計画の5つの行動	5
4 計画の体系	7

第3章 文京区アカデミー推進計画の推進

1 区民等との連携	9
2 計画の推進体制	9
3 計画の進行管理	9

Ⅱ 各論

第1章 生涯学習	10
----------------	----

第2章 スポーツ	21
----------------	----

第3章 文化芸術	34
----------------	----

第4章 観光	45
--------------	----

第5章 国際交流	62
----------------	----

Ⅲ 参考資料

・事業（案）とりまとめ資料

第1章 文京区アカデミー推進計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

(1) 計画策定の背景

文京区では、平成4年3月、「文京区全域を生涯学習のキャンパスに」として生涯学習推進体制の整備等を目指すことにより、生涯学習をダイナミックに展開していく文京区生涯学習推進基本構想を策定しました。この基本構想に基づき、生涯学習の推進に必要な施策の体系化や、総合的効果的な施策の推進を目的として、平成6年3月に文京区生涯学習推進計画（以下「推進計画」という。）を策定し、区民大学講座の開設などを行いました。

平成12年3月には、推進計画を改定（第1次）し、民間教育機関との連携、区民大学院講座の開設及び区内大学連携講座の開設などを行いました。

その後、平成17年2月には、『^{ふみ}文の京^{みやこ}』の明日を創る」と題した基本構想の策定、社会環境の変化など、生涯学習を取り巻く情勢に的確に対応するため、推進計画の改定（第2次）を行いました。この改定では、「区内全域を生涯学習のキャンパスに」という考え方を打ち出しました。

平成17年11月、「区内まるごとキャンパス」を目指し、最先端の生涯学習と新たな文化・芸術を区民との協働・協治により、幅広く展開する「文京アカデミー構想」を策定しました。文京アカデミー構想実現のための方策として、学びのネットワーク、教育・文化資産のネットワーク、人づくりネットワークを構築することを推進し、資格取得キャリアアップ講座の開設、e-ネットラーニング活用講座の配信、文京ミュージズネットとの連携、生涯学習司・地域文化インタープリター等区独自の資格制度の創設などの事業を実施しました。

このような中、平成22年6月に「新たなる基本構想」が策定されました。「新たなる基本構想」の分野別の将来像を実現するため、新たに「文京区アカデミー推進計画」（以下「アカデミー推進計画」という）を策定することとしました。

(2) 計画策定の目的

本区ならではの環境を活かし、区民や来訪者などが、学びや出会い、交流などの観点から区内で豊かな時間を過ごし、潤いある生活を送ることができるようにすることがアカデミー推進計画の目的です。この目的を、生涯学習、スポーツ、文化芸術、観光、国際の各分野から実現していきます。

なお、アカデミー推進計画は、これまでに進めてきた「文京区生涯学習基本構想」・「文京区生涯学習推進計画」・「文京アカデミー構想」を発展的に解消させたものです。

(3) 各分野の連携

これまで進めてきたアカデミー構想では、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交

流という目的別に推進体制の整備を行い、区民との協働・協治により施策の展開を図ってきました。本計画を構成する5つの分野は、それぞれの分野に特徴がある一方で、目的や手法が重なり合い、相互に関係性を有する施策として位置付けることのできる面も持ち合わせています。

このような特徴を持つ5つの分野について、本計画では、単一的に各分野の事業を展開するだけでなく、有機的な連携により互いに補完し合い、互いを高め合い、横断的な広い観点から事業の展開を図ることも目指しています。

2 計画の位置づけ

(1) 性格

○ 本計画は、「新たなる基本構想」に掲げられた、

- 1 みんなが主役のまち
- 2 「文の京」らしさのあふれるまち
- 3 だれもがいきいきと暮らせるまち

の基本理念に基づき、将来都市像である「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」を、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際分野の側面から実現するための事業計画です。

○ 本計画は、アカデミー推進部が実施する施策を中心に取りまとめ、計画的かつ効率的に推進するための指針を示すものです。

(2) 計画の構成

本計画の構成は、「総論」と「各論」で構成します。

「総論」は、文京区が推進するアカデミーに関する「基本理念」「基本目標」「5つの行動」を概ね10年程度の長期的・普遍的な観点から掲げたものです。

「各論」は、「総論」に掲げた「基本理念」「基本目標」「5つの行動」に基づいて、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際分野の「基本的な方向」やその方向に沿った事業例等を示したものです。

3 計画の期間

計画の期間は平成23年度から25年度までの3年間とします。

第2章 文京区アカデミー推進計画の考え方

1 計画の基本理念

アカデミー推進計画の基本理念

区内まるごとキャンパスに — 「文の京」豊かな学びと交流を楽しむまち —

本区には、18もの大学を始めとする文教施設が多数集積しているだけでなく、森鷗外、夏目漱石など近代文学の礎を築いた文人を多く輩出するなど、文教の地として広く知られています。その他区立施設としては、響きの森文京公会堂（文京シビックホール）や8館3室の区立図書館、文京アカデミー、ふるさと歴史館などの文化・生涯学習施設、スポーツセンター、総合体育館などのスポーツ施設があります。

また、小石川後樂園を始めとした旧大名庭園や由緒ある神社・仏閣等、歴史を語る数多くの建造物も残るなかで、貴重な緑にも恵まれ、都心にありながら落ち着いたたたずまいをみせています。

このように、本区には様々な学習資源、文化資源、地域が誇るべき観光資源が豊かに存在します。

さらに、人材の観点からも区内には、現役で大学、企業、NPOなどで活躍し、あるいは、リタイアした経験豊かな区民が多数存在し、こうした地域の資源というべき貴重な人材などによる地域貢献事業も行われています。

このような本区の特性を背景に、この理念は「いつでも・どこでも・だれでも」活動したいときに活動し、楽しむことができ、さらに、その過程で生じる様々な世代等との出会いや交流を通じて、相互に触発されながら、「文の京」らしさあふれる文京区で豊かな時間が過ごせるようにすることを目指すものです。

そこで、アカデミー推進計画の基本理念を『区内まるごとキャンパスに— 「文の京」、豊かな学びと交流を楽しむまち—』と決めました。

2 計画の基本目標

基本理念を実現するために、3つの基本目標を策定します。

アカデミー推進計画の基本目標（案）

目標1 豊かな時間を過ごせる環境づくり

在住、在勤、在学の区民のみならず、観光や仕事などで訪れる一人ひとりが、文京区というキャンパスの上で、様々なことを「みて」「きいて」「体験して」その人が、豊かな時間を過ごすことのできる環境づくりに配慮していきます。

目標2 交流を通じた新たなコミュニティの創造

同じサークルや講習会などに集う人々の「出会い」や同じ事柄に関心をもつ者同士が「集まる」ことにより、従来の地縁や血縁の枠を超えた、新しい人とのつながり、様々な交流を通じた新たなコミュニティの創造を目指します。

目標3 多彩な連携によるネットワークづくり

区民や来訪者が、「文の京」で興味や関心を深めたり、充実した時間を過ごせたりすることができるようにするために、区は、区民・^{ふみ}地域活動団体・^{みやこ}大学・NPO（非営利活動団体）・事業者など新たな公共の担い手と連携・協働を進め、様々な経験を重ねることができるネットワークづくりを進めます。

3 計画の5つの行動

前述した3つの目標を達成するため、「つくる」「整える」「つなぐ」「活かす」「協働する」の5つの行動を重視して、施策を展開していきます。

アカデミー推進計画の5つの行動（案）

行動1 区の魅力を活かした多様な機会を「つくる」

生涯を通じて活発に活動し、また、関心のある事柄について深く究めることができるよう、各種団体施設、文化財、風景等の多様な資源を活用し、区民や来訪者が区内で充実した時間を過ごせる機会をつくります。

行動2 情報を分かりやすく伝える仕組みを「整える」

様々な立場の人が、活動する際に有益な情報を取得することができるよう、情報を分かりやすく提供するよう工夫し、また幅広く相談に応じる体制を整えます。

行動3 個人や団体の主体的な活動を「つなぐ」

個人や活動サークルが交流や連携を通じてつながり、実践的な活動に発展させるための仕組みを整備し、様々な活動の運営を自ら担っていけるように支援します。

行動4 豊富な知識や経験をもつ人材を「活かす」

現在、学習や稽古、練習を重ねている方や、これまで経験したことのある方など、地域には様々な「力」を有する方々がいます。その成果を地域へ還元できるように、そうした方々の「力」を活かします。

行動5 アカデミーを推進する多彩な主体と「協働する」

計画の推進を区に関わる人みんなが進めていくため、区民や大学、事業所や各種団体などとの連携・協働を図っていきます。そして、区民や来訪者がこれまで以上に文京区で有意義な経験をし、豊かな時間を過ごせるよう努めていきます。

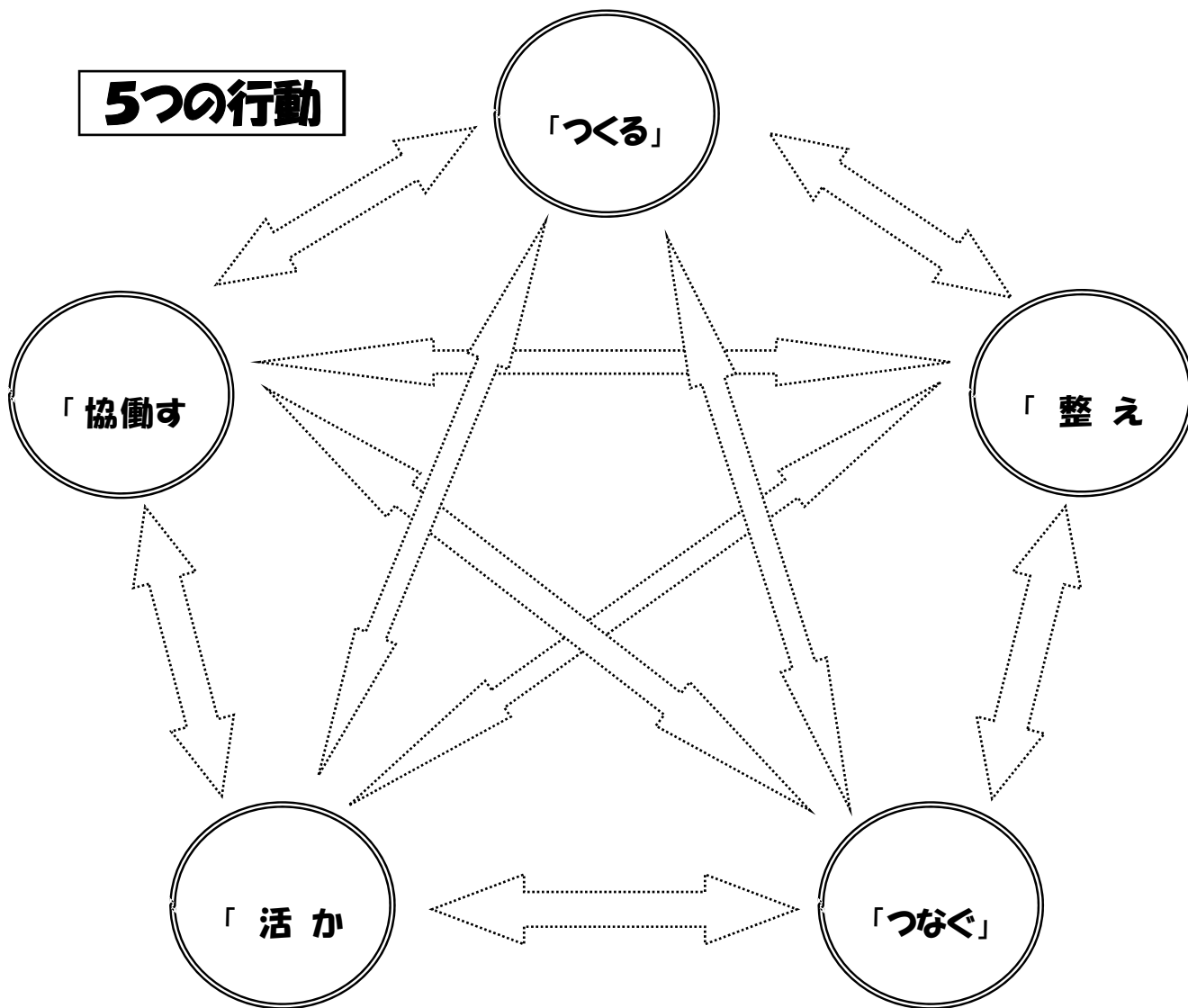
「区内まるごとキャンパスに」

— 「文の京」^{ふみ みやこ} 豊かな学びと交流を楽しむまち —

基本目標

- ・豊かな時間を過ごせる環境づくり
- ・交流を通じた新たなコミュニティの創造
- ・多彩な連携によるネットワークづくり

5つの行動



4 計画の体系

アカデミー推進計画を進めていくために、5分野からなる以下の計画体系によって実施していきます。

分野	分野別の目標	基本的な方向	
生涯学習	1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実	
		(2) 学習や活動ができる環境の提供	
		(3) だれでもが学習・活動しやすい仕組みづくり	
		(4) 様々な学習活動を支援する区立図書館づくり	
	2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 学習情報の収集・整理	
		(2) 分かりやすい情報提供	
		(3) 相談体制の整備・充実	
		(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり	
	3 区民・団体の主体的な活動の支援	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり	
(2) 活動成果披露の場の充実			
(3) 人材育成の推進			
(4) 人材活用の推進			
スポーツ	1 スポーツのきっかけづくり	(1) スポーツに関する情報の発信と相談窓口の設置	
		(2) スポーツへ参加する機会の提供	
	2 スポーツを楽しむ環境づくり	(1) スポーツ施設の整備・充実	
		(2) 既存施設等の利活用	
		(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供	
		(4) スポーツを通じた地域交流の活性化	
	3 スポーツ観戦の魅力向上	(1) プロスポーツ団体等との連携・協力	
		(2) スポーツ観戦機会の拡充	
	4 スポーツ指導者の育成	(1) スポーツ指導者等の育成と確保	
		(2) スポーツ指導者の技術等の強化	
	文化芸術	1 だれでもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実	(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実
			(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実
(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実			
(4) だれでもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり			
2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実		(1) 文化芸術関連の情報収集・整理	
		(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信	
		(3) 相談体制の整備・充実	
3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり		(1) “楽しむ人”づくりの推進	
		(2) “活動する人・団体”への支援	
		(3) “伝える人”の育成と発掘の推進	
		(4) 人材活用の推進	
		(5) 文化財の発掘と保存の推進	

分野	分野別の目標	基本的な方向
観光	1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出	(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ
		(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり
		(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり
		(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築
	2 まちあるきや交流のための環境づくり	(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進
		(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり
		(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり
		(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進
		(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）
		(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり
	3 観光まちづくりのための情報発信	(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化
		(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進
		(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR
		(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進
	4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり	(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成
		(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用
(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成		
(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり		
国際	1 国際理解を進める機会づくり	(1) 国際理解の推進
		(2) 多様な文化を学べる機会の充実
	2 国際交流を進める機会づくり	(1) 交流の機会の拡充
		(2) 交流を支える人材の育成及び支援
		(3) 交流拠点の整備
		(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化
	3 外国人が快適に暮らせる環境づくり	(1) 外国人の暮らしの支援
		(2) 地域活動への参加促進

第3章 文京区アカデミー推進計画の推進

1 区民等との連携

アカデミー推進計画を着実に推進していくために、区民、地域活動団体、大学、NPO（非営利活動団体）、事業者など新たな公共の担い手と区が互いの役割分担を認識して力を合わせ、「文の京」自治基本条例で自治の理念として掲げている「協働・協治」の考えに基づき、連携を進めていきます。

2 計画の推進体制

アカデミー推進計画の推進において、行政内部の体制を整理し、学識経験者、公募区民委員、団体関係者等で構成する協議の場を設け、従来にも増して連携・協働を進め、多方面からの幅広い意見を聴取しながら、計画の効果的で円滑な推進に向けて取り組みます。

3 計画の進行管理

アカデミー推進計画を総合的かつ計画的に進めていくため、社会情勢等の変化に応じた見直しと、事業の評価・検証を行い、さらなる展開に反映させていくことが求められます。そのため、「Plan（計画）⇒Do（実施）⇒Check（点検・評価）⇒Action（見直し）」のPDCAサイクルに基づく進行管理を実施し、アカデミー推進計画全体の着実な推進を図っていきます。

Ⅱ 各論

第1章 生涯学習

1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、様々な区民の学習ニーズに応えられるよう、教養を高める講座、日々の生活を豊かにするための講座、資格取得やキャリアアップを支援する講座など、各種講座の充実を図っています。また、講座や生涯学習団体等が行う活動を体験するなど、多くの区民が生涯学習活動に参加できるような取り組みも行っています。そのほか、いつでも、どこでも、だれでも学習ができるよう、文京アカデミア講座や講演会の一部のインターネット配信も行ってきました。

しかし、『文京区アカデミア推進計画基礎調査報告書（以下「調査報告書」という）』（平成22年3月文京区）では、この1年くらいの中に生涯学習に取り組んだことのある人は41.4%にとどまっており、男女ともに子育て世代で取り組んだことがない人が多くなっています。生涯学習を行わない理由では、男女20～60歳代は「仕事や家事が忙しくて時間がないから」、男性70歳以上は「特に必要ないから」、女性70歳以上は「自分の希望に合う講座や教室がないから」が高くなっており、生涯学習に取り組んでいない人の多くが、時間をとることができていないために学習や活動を行っていないことが分かります。

こうした状況に対し、活動しやすい時間帯では、「土日祝日日中（9時～18時）」「平日日中（9時～18時）」「平日夜間（18時～22時）」の順に望む割合が高く、活動場所については、「図書館」は男女ともに20歳代～50歳代で特に高くなっています。また、今後取り組みたい生涯学習では、「教養的なもの」「健康・医学・食育」「家庭生活に役立つ技能」「仕事に関係のある知識の習得や資格取得など」の割合が高くなっています。

さらに、学習や活動機会の充実を、区や指定管理者主催の講座やイベント充実のほか、大学や企業などとの連携・協働によっても進めていくことが求められています。

このように、様々な状況にある区民が希望する学習や活動ができるよう、さらに学習の機会を充実させることが重要です。また、講座や教室の内容の充実だけでなく、学習や活動のための施設確保や時間帯の配慮など、参加しやすい仕組みづくりを併せて行うことが大切です。

◆ 課題

- ① 区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会を充実させることが求められています。
- ② 学習や活動のための場所の確保や充実に努めることが求められています。

- ③ だれもが学習や活動ができるような配慮や仕組みづくりを進めることが求められています。
- ④ 学習の場所として図書館の機能を充実させることが求められています。

【基本的な方向】

(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実

- ・ 区民の様々なニーズに対応できる学習機会を提供し・充実させるため、教養的な講座から実学的な講座など、バラエティに富んだ機会を用意します。
- ・ 講座の内容については、行政、大学、区民、企業などが役割を分担し、連携・協働しながら担っていきます。
- ・ 大学においては、より専門的な学習について担うことが期待されており、各大学の特色や得意とする分野を活かした講座を目指します。
- ・ また、多様な講座の開催を、企業との連携・協働により進めていきます。
- ・ さらに、学習や活動内容の充実のため、近隣区の住民相互の講座受講やパソコンの使用など、近隣区と生涯学習に係るソフト、ハードを交換する連携事業を検討していきます。
- ・ 区民に生涯学習の魅力を伝えるとともに、生涯学習活動への参加を促す機会として「生涯学習一日体験フェア」を開催します。

(2) 学習や活動ができる環境の提供

- ・ 区有施設を中心に、学習や活動ができる場所の充実を図るとともに、大学や民間施設の開放を引き続き要請していきます。
- ・ また、今後、改築する生涯学習施設については、学習の場としてより一層利用しやすい施設にしていきます。
- ・ 学習に必要な場所の充実のほか、学習機材の提供においても充実を図っていきます。

(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり

- ・ 様々な状況にある区民一人ひとりの学習や活動を応援するため、時間や場所など、学習や活動を行うにあたっての制約を除くための配慮と支援を行います。
- ・ 比較的時間や場所を問わずに利用できる、インターネットを介した学習環境や情報提供、施設予約システムの活用を進めていきます。
- ・ 生涯学習活動団体の活動を効率的に進めるために、情報通信技術を活用した仕組みづくりを検討していきます。

(4) 様々な学習活動を支援する区立図書館づくり

- ・ 障害者、高齢者等をはじめ幅広い世代や対象者に役立つ資料などの収集、レファレンスサービスなどの更なる充実により、区民の学習を支援していきます。
- ・ ビジネスや子育て、医療など、仕事や生活に役立つ資料や情報を積極的に収集提供していきます。

- ・ 子どもの読書活動を支援するために、読書相談や読書活動の指導に関する知識と技術を有する者による、発達段階に応じた子どもへの読書活動を支援していきます。

【事業例】

(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実

事業名	概要	担い手
「文京学」講座の企画・実施	文の京で開花した歴史や文化、地勢をはじめとして、多面的に学べる講座を企画・実施する。講座の企画に際しては、例えばふるさと歴史館などと連携して、文豪たちがどのように文京区で生きていたかの足跡をたどることや、文京区検定の実施、文京区の観光グッズ等を発掘するなどの観光的な視点を関連づけることも検討する。	行政 指定管理者 区民 大学 民間事業者
文京アカデミア講座の充実	区民が、地域、文学、歴史・社会、芸術、暮らし、語学、健康・スポーツなど、区民ニーズに対応した多様な分野について学ぶことができるよう、文京アカデミア講座の内容を充実する。 また、多くの区民が受講しやすいよう講座の開催日時等の検討を行う。	行政 指定管理者 区民 大学 民間事業者
生涯学習一日体験フェアの開催	文京アカデミア講座等の紹介や体験、生涯学習に関する相談や情報提供、生涯学習活動を行う団体等の紹介などを行い、区民に生涯学習の魅力を伝えるとともに、生涯学習活動への参加を促す機会として「生涯学習一日体験フェア」を開催する。	行政 指定管理者 区民 生涯学習団体 大学等
大学キャンパス講座等の実施	大学の持つ高度、専門的な知的財産や人材を活用し、各大学の得意分野を活かした講座を実施する。また、子育て中の女性の再就職などを目的として、キャリアアップ等支援講座を区内大学等と連携して実施する。そのほか、特別講座として大学学長の講演会などを実施する。	行政 指定管理者 大学
企業連携講座の実施	企業等から、ビジネスやマネジメントをはじめとした多様な講座の企画・提案を募り、協力、連携して実施する。	行政 指定管理者 企業・団体等

(2) 学習や活動ができる環境の提供

事業名	概要	担い手
アカデミー文京、地域アカデミーの整備	区民の生涯学習活動の拠点として、アカデミー文京、地域アカデミーの施設改修、学習機材等の整備を推進する。	行政 指定管理者
区有施設の活用促進	区有施設を活用して、区民等が生涯学習活動を行う場所の提供を検討する。	行政
大学や企業等の施設開放の要請	大学の文化芸術・体育施設や民間企業・団体等の所有する施設の区民への開放を要請する。	行政 区内大学 企業・団体等

(3) だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり

事業名	概要	担い手
会員募集方法や会員間の連絡手段の仕組みづくり	生涯学習活動を行う団体等が、新たな会員募集や会員間の連絡を効率的に進めるために、情報通信技術（ICT）を活用したメーリングリストなどの導入を検討する。	行政
インターネットを活用した文京アカデミア講座等の配信	区民が、時間や場所を問わずに、パソコンから文京アカデミア講座等の受講ができるようにするため、インターネットを活用したe-ネットラーニングシステム*による講座を配信する。	行政 指定管理者 大学

(4) 様々な学習活動を支援する区立図書館づくり

事業名	概要	担い手
ユニバーサルサービスの充実	図書館への来館が困難な特別の支援を必要としている区民へ、利用の際の介助、対面朗読、資料の宅配等の図書館サービスを図る。	行政 指定管理者
多様なテーマへの支援	ビジネス・医療・法律・子育て等の資料や情報の提供を行い、区民の暮らしに役立つ課題解決型図書館の整備を図る。	行政 指定管理者

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

●●●●●

* e-ネットラーニングシステム：インターネットを通じて学習講座を配信することで、24時間自宅で学習できる環境を整備するシステム

2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、区民の生涯学習活動がより豊かなものとなるよう、学習や活動、大学の情報など、生涯学習に関する様々な情報を収集し、ホームページや広報紙、CATVなどを通して情報を提供してきました。また、生涯学習一日体験フェアでは、生涯学習情報・相談コーナーを設置し、情報提供だけでなく、相談対応も行ってきました。

しかし、調査報告書では、生涯学習に取り組んでいない理由として、「十分な情報が得られないから」が特に男性60歳代と女性20歳代で3割を超えています。こうしたことから、生涯学習に取り組む上で有効な情報が十分に得られることが大切であり、あらゆる世代にとって分かりやすく、かつ取得しやすい情報提供方法の工夫が必要であることがうかがえます。

さらに、区が注力すべき課題として「学習や活動について気軽に相談できる窓口を充実すること」が特に女性50歳代で25.0%挙げられています。現在は、区民プロデュース講座企画者への相談対応や、生涯学習一日体験フェアでの相談コーナーなどは体制を構築し実施していますが、日常的な窓口や電話等による学習相談についても、さらに強化をしていく必要があるといえます。

これらより、区民が学習や活動を活発に行っていくためには、有効な情報を十分に、そして手軽に得られることが大切であると言えます。そこでは、あらゆる年代、状況にある人にとって取得しやすい方法の工夫が必要です。また、情報提供だけでなく、学習や活動の悩み、知りたいことについて気軽に相談できる場があることも重要です。さらに、情報提供と相談においては、区民の身近にある学習の拠点ともいえる図書館の機能も期待されており、それぞれの地域の状況に応じた情報提供・相談の仕組みづくりが求められています。

◆ 課題

- ① 区民の様々な学習や活動のニーズを満たすことのできる情報の収集・整理が求められています。
- ② 収集した情報を分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが求められています。
- ③ 区民が気軽に相談できる機会と場が求められています。
- ④ 情報提供において、各地域にある図書館が拠点となることが求められています。

【基本的な方向】

(1) 学習情報の収集・整理

- ・ 区民一人ひとりの学習や活動意欲を満たすことができるようにするため、区をはじめ、大学、指定管理者など、生涯学習に関する様々な機関の情報を収集し、一元管理します。
- ・ 地域住民からの情報を学習や活動の活性化に活用していきます。

(2) 分かりやすい情報提供

- ・ 区民が手軽に欲しい情報を入手できるようにするため、収集した情報を一元化し、様々な情報をひとつの場所で得られるよう工夫します。
- ・ 情報提供においては、総合情報コーナーの設置やインターネットサイト構築など、いつでもどこでも手軽に情報を得られるように工夫をします。

(3) 相談体制の整備・充実

- ・ 学習や活動を豊かにするため、区民が気軽に相談できる機会と場を充実させます。
- ・ 区民プロデュース講座企画者に対する相談にも応じていくことで、区民主体の生涯学習活動の充実を推進していきます。

(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり

- ・ 情報通信技術（ICT）の積極的な活用を推進し、ホームページなどの広報媒体を有効に活用し、社会情勢等を見据えたタイムリーな情報を発信していきます。
- ・ 地域特性を活かした資料の収集・提供を行うとともに、地域と連携した事業を展開していきます。
- ・ 図書館サービスを担う職員・スタッフの能力などを向上させ、専門性の高い職員等を育成し活用していく研修等の充実を図っていきます。

【事業例】

(1) 学習情報の収集・整理

事業名	概要	担い手
生涯学習関連情報の収集・整理	区をはじめ、大学や生涯学習関係団体等の様々な生涯学習に関する情報を収集する。また、区民が学習や活動を活発に行っていくために、活用しやすいデータベースに整理する。	行政 指定管理者 区民

(2) 分かりやすい情報提供

事業名	概要	担い手
生涯学習に関する総合情報コーナーの設置	区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取り組めるよう、生涯学習情報を一元化して、総合的に紹介するコーナーを設置する。	行政 指定管理者
生涯学習情報提供サイトの構築	区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取り組めるよう、生涯学習情報を一元化して、総合的に発信する情報提供サイト（ホームページ）を構築する。 サービスメニューとして、様々な生涯学習情報を分かりやすく提供するほか、イベント情報カレンダー、各種情報の検索、メールマガジンの配信、携帯電話からの閲覧対応等を検討する。	行政 指定管理者

(3) 相談体制の整備・充実

事業名	概要	担い手
生涯学習相談体制の整備	区民が生涯学習や活動を活発に行っていくために、様々な相談に対応できる体制を整備する。	行政 指定管理者

(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり

事業名	概要	担い手
図書館におけるデジタルコンテンツの拡充	新たなコンテンツを追加し、図書館の情報発信機能を拡大するとともに、区民への読書活動を推進する。	行政 区民 指定管理者
図書館資料へのICタグ整備	資料にICタグを貼付し、事務の省力化と利用者サービスの向上を図る。	行政 指定管理者
地域と連携した行事の開催	地域資源を有効に活用し、区民と連携を図るための事業を実施する。	行政 区民 指定管理者

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定



3 区民・団体の主体的な活動の支援

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、生涯学習活動を行う団体の自主的な活動が活性化していくよう、連絡会の活動を支援しています。

一方、調査報告書では、区が注力すべき課題として「一緒に行う仲間づくりの機会を創出すること」の割合が、特に男性で高くなっています。こうしたことから、区民が主体的に活動や学習を行っていく上では、団体同士のつながりなども含む、学習や活動の楽しみや喜びを共有できるような仲間がいることが大切なポイントであることが分かります。また、団体が自主的な活動を継続できるようにしていくためには、団体同士のつながりだけでなく、団体運営のノウハウなどの研修や講座の機会があることも必要であると考えられます。また、本区では、生涯学習司や文の京地域文化インタープリターといった独自の資格制度を設け、本区の生涯学習を推進していく人材の育成を行っています。区民の主体的な生涯学習の活動や学習をさらに支援していくためには、今後こうした人材の育成をさらにレベルアップしていくことが大切です。

そして、これまでに、人材の育成だけでなく人材の活用にも取り組んできました。生涯学習司については、生涯学習一日体験フェアなどにおいて活用を図ったほか、生涯学習司が企画した講座も開催してきました。また、地域文化インタープリターも企画展を開催するなど、区民の学習成果を活かした生涯学習を推進してきました。しかし、その一方で、生涯学習司等の資格取得後の活動の場が不足しているという現状も見受けられ、育成した人材の活躍の場の構築が今後求められます。また、人材活用については、こうした資格取得者のみならず、地域にいる様々な人材の知識や経験を地域に還元することも必要であるといえます。

さらに、主体的な活動の継続において、成果披露の場があることは、意欲向上や成果のまとめにおいて重要な役割を持っています。生涯学習活動がさらに活発になっていくよう、今後、さらに成果披露の場を充実させることが求められています。

◆ 課題

- ① 区民の主体的な学習や活動を支えるための仕組みづくりが求められています。
- ② 学習や活動をより活性化させるため、成果を披露する機会の充実が求められています。
- ③ 生涯学習司や文の京地域文化インタープリターなど、区独自の資格制度による人材の育成と活用が求められています。
- ④ 地域に存在する学習・活動経験者の知識や経験を地域に還元できるよう、人材活用の推進が求められています。

【基本的な方向】

(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり

- ・ 主体的な活動を支えるため、団体間の連絡会を設けるなど、団体同士が情報交換できるネットワークの形成、連携を進めます。
- ・ 区民の主体的な活動を支えるため、社会教育関係団体の要件を満たす団体の登録・活動支援を行っていきます。
- ・ 生涯学習活動団体の情報交換のため、区報やインターネットサイトなど、様々な媒体を用いて活動の様子や成果等を紹介していきます。

(2) 活動成果披露の場の充実

- ・ 区民の豊かな学習や活動のため、成果を披露する場と機会を充実させます。
- ・ 区民には、趣味や学習の成果を地域に還元することが期待されており、そのために区民主催の講座の機会を提供していきます。
- ・ 生涯学習支援者が区民の相談に応じることで、地域にその経験や知識を還元できる機会を設けていきます。

(3) 人材育成の推進

- ・ 学習や活動を豊かにするため、生涯学習司や文の京地域文化インタープリターなどの独自の資格制度によって人材を育成していくとともに、こうした人材が連携を深めるための場を設けていきます。また、指定管理者と協働して講座の運営を行っている文京アカデミアサポーターの育成にも努めていきます。
- ・ 地域における生涯学習活動を活性化するために、地域での活動を担う人材を育成していきます。
- ・ 生涯学習活動団体内における人材育成として、運営者を対象とした団体運営のための研修開催を支援します。

(4) 人材活用の推進

- ・ 学習や活動を活性化させるため、地域にいる専門知識・技能を持つ指導者や支援者を登録・活用し、その知識や経験を地域の中で活かしていく機会を設けます。
- ・ 生涯学習司や文の京地域文化インタープリターなどの資格取得者の活躍の場を充実させます。また、こうした有資格者や文京アカデミアサポーターなどのボランティアの人材情報をデータベース化し、学習の成果を地域に還元できる仕組みを整えていきます。
- ・ 区立図書館において、ライブラリーパートナー（図書館ボランティア）と連携を図るとともに、活動者相互の交流を支援し、読み聞かせ等の読書活動の充実を図ります。

【事業例】

(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり

事業名	概要	担い手
主体的な生涯学習活動の紹介	様々な広報媒体を活用して、生涯学習団体・サークル等が行っている生涯学習の成果や魅力的な活動等を紹介する。	行政 指定管理者 区民 生涯学習団体
地域団体・サークル連絡会の支援	区内で生涯学習活動を行っている地域団体や自主サークル等が、相互に連携を取り、必要に応じて協力し合い、活動を活発化する取り組みや情報交換などを目的に連絡会を設置し、その活動を支援する。	行政 生涯学習団体

(2) 活動成果披露の場の充実

事業名	概要	担い手
区民プロデュース講座の充実	区民やNPO等団体が企画運営する講座を募集し、実施する区民プロデュース講座の内容を充実する。 各講座は、区民等が講師、運営を担い、ボランティアとの協働により実施する。	行政 指定管理者 区民 生涯学習団体
主体的な生涯学習活動の披露の場の提供	生涯学習団体・サークル等が行っている生涯学習の成果や魅力的な活動等を披露する場を提供する。	行政 指定管理者 区民 生涯学習団体

(3) 人材育成の推進

事業名	概要	担い手
生涯学習支援者の育成	地域での生涯学習のリーダーとなる生涯学習司、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する文の京地域文化インタープリターなど本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーターの養成等、生涯学習支援者を育成する。	行政 指定管理者 区民
生涯学習活動団体マネジメント講座の開催	区内で生涯学習活動を行う団体やサークル等の運営者を対象に、団体等の運営やマネジメントのノウハウに関する講座の開催を支援する。	行政 指定管理者 区民 生涯学習団体

(4) 人材活用の推進

事業名	概要	担い手
生涯学習人材バンクの再構築	区民が生涯学習を行うために必要な専門知識や技能を持つ指導者等を生涯学習に係る人材として登録・活用していく制度を再構築する。	行政 指定管理者 区民
生涯学習支援者の活用	地域での生涯学習のリーダーとなる生涯学習司、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する文の京地域文化インタープリターなど本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーターの養成講座を開催し、修了者の活用を図る。	行政 指定管理者 区民 文の京生涯学習司 文の京地域文化インタープリター 文京アカデミアサポーター

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

●●●●●

第2章 スポーツ

1 スポーツのきっかけづくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区には、総合体育館・スポーツセンター・小石川運動場・六義公園運動場・後楽公園少年野球場・竹早テニスコート等のスポーツ施設があり、年間 70 万人を超える利用者（平成 21 年度）が、これらの施設でスポーツに親しんでいます。

また、本区では、子ども、成人、高齢者、障害者（児）等の年齢や体力等に応じた様々な健康づくり事業や体力づくり事業を行っています。さらに、初心者向けのスポーツ教室を開催したり、種目ごとに指導員を配置して屋内スポーツ施設を個人に開放したり、各種のスポーツ大会を開催するなど、個々の技術や興味、目的に応じた様々なスポーツやレクリエーションの機会を区民に提供しています。

『文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書（以下「調査報告書」という）』（平成 22 年 3 月文京区）をみると、スポーツを日頃「している」と回答した区民は 48.9%、一方、「していない」は 50.4%となっています。スポーツをしている人は、「週に1日以上」が 80.0%以上を占めていて、男性 30～40 歳代、女性 30 歳代と 60 歳代が特に多くなっている一方で、男性 50 歳代、女性 20 歳代などでは「していない」と回答している区民が多くなっています。そこで、スポーツをしていない人にその理由を聞いたところ、「仕事・家事・育児で忙しいから」、「きっかけがないから」、そして「お金がかかるから」などが多くっており、男女ともに 50 歳代では『きっかけがないから』が特に多くなっています。

このように本区では、様々なスポーツ活動の機会を提供し、多くの区民がスポーツを行っていますが、一方で日頃スポーツをしていない人も多くいるのが現状です。健康で豊かな生活を送るためにも、多くの区民が生涯にわたりスポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動に関する情報を広く周知することや、手軽に取り組める機会をつくることなどにより、今後もスポーツへの参加をさらに促進していく必要があります。

◆ 課題

- ① 区内にある様々なスポーツ活動や利用できる施設等の情報を分かりやすく提供するとともに、様々な相談・問い合わせ等に対応していくことが求められます。
- ② 区民の多様なライフスタイルを踏まえて、日頃スポーツをしていない人がスポーツをはじめめるきっかけとなるような情報の発信や、手軽にスポーツにふれたり、取り組める機会を創出していく必要があります。

【基本的な方向】

(1) スポーツに関する情報の発信と相談窓口の設置

- ・ スポーツ活動等に関する情報の収集・発信を充実していくとともに、情報発信手段

のさらなる工夫、広報手法の充実、年代やターゲットを踏まえた効果的な情報提供を行っていきます。

- ・ スポーツ活動や施設等の情報について一元的な管理を行ったり、相談に応える窓口を設置します。

(2) スポーツへ参加する機会の提供

- ・ 多くの区民が年代やライフスタイルに応じて、様々な形態で気軽にスポーツに親しめる機会の充実を図っていきます。

【事業例】

(1) スポーツに関する情報の発信と相談窓口の設置

事業名	概要	担い手
スポーツ情報の収集・発信	区民が区内全体のスポーツ情報を手軽に得ることができるよう、公共スポーツ施設だけではなく、民間スポーツ施設やスポーツ団体等の情報も含め、区内のスポーツ関連情報を一元化します。 また、保健サービスセンター、医療機関等のスポーツ施設以外の施設や町会、青少年対策地区委員会等の地域団体と連携・協力し、区内のスポーツ情報を広く発信します。	行政 体育協会 体育指導委員 医療機関 区内団体
スポーツ総合情報窓口の設置	スポーツセンター及び総合体育館にスポーツ総合情報窓口を設置し、区内全体のスポーツ関連情報に関する様々な問い合わせ等に対応します。	行政 指定管理者

(2) スポーツへ参加する機会の提供

事業名	概要	担い手
スポーツ体験教室の開催	区民が気軽にスポーツを楽しめるように、種目別初心者教室に加え、年齢別初心者教室等を実施します。また、開催時間に合わせた指導員の確保や大学との連携等を進め、運営体制の強化を図ります。	区民 行政 体育協会 体育指導委員 区内大学等
健康ウォーキングイベントの開催	まち歩きなどを通じて、区民がより区内を知る機会と健康づくりを推進して、観光協会等と連携して区内名所旧跡などを回るウォーキングイベントを開催します。	区民 行政 観光協会等

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

・ ●●●

2 スポーツを楽しむ環境づくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、スポーツ機会の拡大を図るため、区立のスポーツ施設を整備・充実させるとともに、区内の学校やスポーツ団体等の施設の活用も図っています。

区立小・中学校の体育館や校庭等を夜間・休日にスポーツのために開放し実施している「スポーツ交流ひろば」では、年間3万人を超える区民（平成21年度）が、身近な場所で気軽にスポーツを楽しんでいます。他にも、子どもから高齢者までの幅広い年齢層に対応した各種のスポーツやレクリエーション等の事業を実施し、区民が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりに務めています。

「文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書」では、現在行っている（今後行ってみたい）スポーツを、今後より豊かに行うための場所について、「区立の体育館（スポーツセンターなど）」と答えた区民が44.3%と最も高く、次いで「民間のスポーツ施設」が39.1%、「近くの公園」が24.0%などとなっています。

スポーツに取り組むための条件については、「スポーツ施設の利用料金が安くなる」（32.4%）、「スポーツ施設の増加」（28.1%）、「仕事・家事・育児の時間の短縮」（26.8%）の順に割合が高く、スポーツを行いやすい時間帯は、「土日祝日の日中（9時～18時）」（50.2%）、「平日日中（9時～18時）」（34.7%）が上位となっています。

また、スポーツをしている主な理由は、「健康維持・体力向上のため」（79.0%）、「運動不足解消のため」（58.0%）、「ストレス解消や気晴らしのため」（41.4%）の割合が高く、スポーツをしていない主な理由については、「仕事・家事・育児で忙しいから」（45.7%）「きかけがないから」（25.0%）が高くなっています。

このように、スポーツをするために区立の体育館など公共の施設を利用したいと考える区民が多く、さらに利用料金を下げ、施設が使える時間を工夫して欲しいという調査結果から、区立スポーツ施設の使いやすさを高めていく必要があります。

また、生活形態や家族構成、体力や障害等でスポーツができる条件が異なり、多くの区民がスポーツを楽しめるようにするためには、多様なニーズにきめ細かく対応し、さらに様々なスポーツの機会を提供していく必要があります。

◆ 課題

- ① 区立スポーツ施設の使いやすさをより一層高めるとともに、「スポーツ交流ひろば」のように身近な場所で気軽にスポーツが楽しめる場として、さらに区内のスポーツ資源の活用を図っていくことが求められます。
- ② 子ども、勤労者、妊産婦、高齢者、障害者など、ライフステージや、ライフスタイル、障害、体力等を踏まえて、健康づくりやスポーツを楽しむための様々な支援や配慮、対象者のニーズに応えた、多様なプログラムを提供していくことが望まれます。
- ③ スポーツを楽しむことに加え、レベル向上等を必要とする人には、競技力の向上

を支える仕組みが必要です。

- ④ 既存のスポーツ団体の活動を活性化するために、関係団体との連携強化が必要です。

【基本的な方向】

(1) スポーツ施設の整備・充実

- ・ スポーツの機会を拡大するため、スポーツ施設を整備・充実させるとともに、区内の学校や民間等の施設等の活用を図っていきます。また、「スポーツ交流ひろば」等の事業運営に当っては、地域住民等による自主運営化を積極的に推進し、区民との協働によるスポーツ事業を展開します。

(2) 既存施設等の利活用

- ・ 身近なスポーツの場として、区立小・中学校施設の活用を図っていくとともに、区内の大学やスポーツ団体等との連携を通じて、区内のスポーツ資源を活用し、さらにスポーツを楽しむ環境づくりを進めていきます。
- ・ 区内の公園等で気軽にウォーキングやランニングなどのスポーツができる環境づくりを進めていきます。

(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供

- ・ 仕事・家事・育児等のために、なかなかスポーツができない区民が参加しやすいプログラムづくりや、年齢や体力、障害等に応じた多様で柔軟なプログラムづくりを行い、全ての区民がスポーツを楽しむことができる環境づくりを目指します。
- ・ 学校体育と各種スポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、子どもたちの発達段階に応じた指導力を有する人材の発掘や活用を図るとともに、ジュニアスポーツ選手の育成にも力を入れていきます。
- ・ 生涯スポーツの普及・振興と競技力の向上を図るため、子どもから高齢者までに対応した各種スポーツ大会を充実させていきます。

(4) スポーツを通じた地域交流の活性化

- ・ スポーツ活動やスポーツ大会・イベント等を通じて、地域住民の連携や交流を活性化していきます。
- ・ 地域・生涯スポーツの普及・発展のため、自主的なスポーツ活動を行うスポーツ団体の育成を図っていきます。

【事業例】

(1) スポーツ施設の整備・充実

事業名	概要	担い手
スポーツ施設の整備と活用促進	区民が安全かつ気軽にスポーツに親しめるよう、新総合体育館の開設、小石川運動場の改修等を推進します。また、高齢者や障害者、勤労者など、多くの区民が利用しやすい時間帯やサービス内容等の検討を行います。	行政 指定管理者
区立公園の整備・改修の推進	区内の公園等で、気軽にウォーキングやランニングなどのスポーツができる環境づくりを進めます。	行政 教育委員会 区内大学等

(2) 既存施設等の利活用

事業名	概要	担い手
区立小・中学校施設等の活用	小・中学校の校庭や体育館などを活用した「スポーツ交流ひろば事業」をはじめとして、区民が手軽にスポーツに親しめるよう区内の学校施設の有効活用と充実を図るとともに、スポーツ開放事業の積極的な展開と推進を図ります。	行政 体育協会 体育指導委員 地域スポーツ団体

(3) 多様なニーズに対応するプログラムの提供

事業名	概要	担い手
様々な世代等のニーズにマッチしたスポーツプログラムの提供	各種スポーツ団体等と連携協力して、「健康づくり教室」「ファミリースポーツデー」等、様々な世代のニーズにマッチしたスポーツプログラムの充実を図るとともに、区内大学と連携協力したスポーツプログラムを検討します。また、「障害者運動会」等、障害者向けスポーツプログラムの充実を図ります。	行政 指定管理者 体育協会 体育指導委員
スポーツマンシップを尊重したスポーツプログラムの提供	スポーツマンシップを尊重し、スポーツのフェアプレー精神等を学び大切にしなが、スポーツを楽しめるプログラムを提供します。	行政 体育協会 区内スポーツ団体

(4) スポーツを通じた地域交流の活性化

事業名	概要	担い手
地域スポーツ団体等の育成及び支援	「スポーツ交流ひろば」等のスポーツ開放事業の充実や、自主的スポーツサークル等の育成及び支援などを通じて、地域で活動しているスポーツ団体の育成及び支援を行うことにより、スポーツ活動を通じた仲間づくり、生涯スポーツ活動の基盤づくりを推進します。また、団体間の交流やネットワークの構築を進めます。	行政 体育協会 体育指導委員 地域スポーツ団体
東京国民体育大会の開催に向けた取り組み推進	平成 25 年東京国体の開催に向けて、文京区実行委員会を設立し、国体競技の円滑な運営を行います。区内では、レスリング会場（文京スポーツセンター）、サッカー会場（小石川運動場）、デモンストレーション競技（ウォークラリー）、リハーサル大会の実施（レスリング全国大学選手権大会・全国サッカー社会人選手権大会）を予定しています。	行政 体育協会 体育指導委員 スポーツリーダー 関係スポーツ団体等

期待される効果 ※期待される効果は第 5 回策定協議会以降に決定



3 スポーツ観戦の魅力向上

【現状と課題】

◆ 現状

本区には、読売巨人軍の本拠地である東京ドーム、日本サッカー協会（JFA）、講道館等の著名なスポーツ施設やスポーツ団体があり、本区は文化や歴史的な資源とともにスポーツ資源にも恵まれた環境にあります。

本区と読売巨人軍並びに日本サッカー協会とは、それぞれに相互協定を締結し、少年野球教室や少年サッカー教室など、区内の青少年を対象としたスポーツの普及・振興に係る事業を協働で実施しています。こうした協働事業を実施していくなかで、参加した子どもたちや保護者からは、「区内のプロスポーツ団体等の試合を観る機会を増やしてほしい」「プロスポーツ選手等とふれあえる機会をつくってほしい」「プロの技術やレベルの高い練習方法を体験したい」などといった意見や要望が数多く聞かれます。

一方、区内には国・私立を含め、数多くの小学校、中学校、高等学校、大学等があり、それぞれの学校では、運動系の部活動やクラブ活動も盛んに行われ、東京都大会や全国レベルの大会などで優秀な成績を収めている学校も少なくありません。

このように、区内にはプロスポーツ団体以外にも数多くのスポーツ団体等が様々な活躍をし、そこには多くの感動やドラマが生まれています。

しかし、プロスポーツ団体等への地元の区をあげての応援や、地元の学校やクラブチームの応援が本区全体で行われているという状況ではありません。スポーツの魅力や「スポーツ観戦」という視点からも広めていくために、プロスポーツ団体や地域のスポーツ団体等の試合観戦や練習風景の見学など、身近なスポーツを観て楽しめる仕組みや機会をつくることで、区内のスポーツ振興につなげていくことも求められています。

◆ 課題

- ① 区内には、読売巨人軍の本拠地である東京ドーム、日本サッカー協会（JFA）、講道館といった世界的にも有名なスポーツ施設等があります。これらの貴重なスポーツ資源を「スポーツ観戦」という視点からも有効活用して、区内におけるスポーツ振興を図っていくことが重要です。
- ② 区内には、プロスポーツ団体のほかにも学校や地域のクラブチーム等、様々なスポーツ団体があります。こうした身近なスポーツ団体等の試合観戦や地元チーム等を応援できるような仕組みを通じて、区内のスポーツ振興を図っていくとともに支えていくことも必要です。

【基本的な方向】

(1) プロスポーツ団体等との連携・協力

- ・ 区内に拠点を持つ読売巨人軍、日本サッカー協会（JFA）、講道館といったスポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、区民がより一層レベルの高いスポーツを身近に観戦できる機会を多く提供し、区民が各種のスポーツに関心を持ってもらえるよ

うにしていきます。

- ・ プロスポーツ選手とふれあえる場をつくるなどの機会を通じて、身近に接することで自然と応援したくなるような雰囲気づくりを行うなど、様々な機会をとらえて「スポーツを観る」ことを楽しめる環境づくりを行っていきます。

(2) スポーツ観戦機会の拡充

- ・ プロスポーツ団体のみならず、教育関係機関等との連携・協力体制を整備し、学校や地域のクラブチームなど、身近なスポーツ団体等の試合観戦や地元チームや地元アスリートを応援できるような仕組みづくりや事業展開を図っていきます。
- ・ 学校や地域のクラブチームの試合等の情報を収集し、広く区民に情報提供していく仕組みをつくっていきます。

【事業例】

(1) プロスポーツ団体等との連携・協力

事業名	概要	担い手
スポーツ観戦応援事業	区内に拠点を持つ読売巨人軍、日本サッカー協会（JFA）、講道館等との連携・協力により、区民枠のような仕組みや区民の特典を設けるなど、より一層レベルの高いスポーツを身近に観戦できる機会を提供し、区民がスポーツに関心を持ってもらえるようにします。	行政 体育協会 プロスポーツ団体等
スポーツ団体等協働事業	プロスポーツ選手や世界レベルのスポーツ選手等とふれあえる場をつくり、身近に接することで自然と応援したくなるような企画づくりを行う等、様々な機会をとらえて「スポーツを観る」ことを楽しめる環境づくりを行います。	行政 体育協会 プロスポーツ団体等

(2) スポーツ観戦機会の拡充

事業名	概要	担い手
地元スポーツ応援の仕組みづくり	教育関係機関等との連携・協力体制を整備し、学校や地域のクラブチームなど、身近なスポーツ団体等の試合観戦や地元チームや地元アスリートを応援できるような仕組みづくりや事業展開を図ります。	行政 教育委員会 体育協会 体育指導委員 区内大学等
スポーツ地元応援情報の発信	テレビ、ラジオ、新聞などのメディアとの連携を図り、区内で開催される様々なスポーツ情報や、区内のスポーツ団体の試合などの活動情報の提供を検討・推進します。	行政 教育委員会 体育協会 区内大学等

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

・ ●●●

4 スポーツ指導者の育成

【現状と課題】

◆ 現状

本区には、体育指導委員、スポーツリーダーなど、区のスポーツ振興に寄与する多くのスポーツ指導者が活動しています。区立小・中学校で実施している「スポーツ交流ひろば」をはじめとして、各種スポーツ教室、地域のスポーツサークル等の団体への技術指導、毎年体育の日に体力測定やスポーツ体験等を行っている「ファミリースポーツデー」など、広範にわたり多くの指導者が区民のスポーツ指導にあたっています。これらのスポーツ指導者を対象に、メンタルトレーニングや健康指導などの講習会を開催しており、それぞれの指導者は、各団体の会合や広報紙等により、スポーツに関する情報交換等も行っています。

しかしながら、現在、勤務時間外の夜間・休日でないとは活動できない勤労者の指導者や子育て世代など昼間に活動している人を指導できる指導者や、高齢者を対象とした指導者が十分に確保できないなどといった課題があげられています。

地域には、様々なスポーツを経験した指導者等の人材が多く存在していると考えられますが、指導者の数を増やすためにも、それら人材の有効活用が求められます。

また、地域でのスポーツ活動に新規参加者を呼び込んだり、活動を活性化するためには指導者の質（心・技・体）が大切であり、指導者の技術等を強化していくための方策づくり等が求められています。

◆ 課題

- ① 若手スポーツ指導者の育成や地域におけるスポーツの人的資源の活用を図り、様々な種目において多くの指導者を確保していくことが求められます。
- ② スポーツ人口の底辺を拡大するために、行政と関係スポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、より一層、テクニックだけでなくスポーツを通じた人間力の指導など、指導者の技術等を強化していくことが必要です。

【基本的な方向】

(1) スポーツ指導者等の育成と確保

- ・ 小・中学生を対象としたスポーツ教室に区内大学生を指導者として受け入れるなど、若手スポーツ指導者の活動の場をつくとともに、研修の充実やスポーツ指導者間の交流の機会を設け、若手スポーツ指導者の育成を行っていきます。また、地域に埋もれたスポーツ経験者等の新たな人材を発掘するなど、より多くの質の高い指導者を確保し、多種目の多様なニーズに対応していきます。
- ・ 区内のスポーツ活動の場について、若い人たちが多く参加する種目の活動の場をつくるなど、若い人たちが魅力を感じ、参加しやすくするための工夫をしていきます。
- ・ 区外の関係機関とも連携を図って、高齢者や障害者等を対象としたスポーツ指導者や介助者を育成していきます。

(2) スポーツ指導者の技術等の強化

- ・ プロスポーツ団体等との連携・協力体制により、レベルの高い指導者育成のためのプログラムを構築していきます。
- ・ 関係スポーツ団体等との緊密な連携・協力体制を構築し、より一層レベルの高い指導者等を数多く確保するとともに、研修等の機会を増やしスポーツを通じた人間力の指導など、指導者の技術等の強化を図っていきます。

【事業例】

(1) スポーツ指導者等の育成と確保

事業名	概要	担い手
新たなスポーツ指導者の育成・発掘	小・中学生を対象としたスポーツ教室に区内大学生を指導者として受け入れるなど、若手スポーツ指導者の活動の場を創出します。また、研修の機会やベテラン指導者との交流の場を設けて若手指導者の相談に対応するなど、若手スポーツ指導者の育成を行います。加えて、地域の中で、新たなスポーツ経験者等の人材を発掘するなど、より多くの質の高い指導者を確保し、多種目の多様なニーズに対応していきます。	行政 体育協会 体育指導委員 区内大学等 プロスポーツ団体等
多様なニーズに応えるスポーツ指導者の育成	各種スポーツ団体、区内大学等と協力・連携して、指導者育成プログラムの検討・開発を行い、スポーツ指導者の充実を図ります。また、区外の関係機関とも連携を図って、高齢者や障害者等を対象としたスポーツ指導者や介助者を育成するなど、指導者層を厚くしていきます。	行政 体育協会 体育指導委員 関係機関 プロスポーツ団体等

(2) スポーツ指導者の技術等の強化

事業名	概要	担い手
プロスポーツ指導者等の活用	プロスポーツ団体の指導者等を講師として、少年軟式野球チームや少年サッカーチーム等の指導者を対象に講習会を実施するなど、区内スポーツ指導者の技術等の向上を図ります。	行政 プロスポーツ団体等
区内大学等スポーツの人的資源の活用	区内大学のスポーツ指導者を活用するなど、区内の様々なスポーツ資源を活用して、より一層レベルの高い指導者等を数多く確保するとともに、技術面、メンタル面又は対象別等、多面的に捉えたスポーツ指導者研修の機会を増やし、指導者の技術等の向上を図ります。	行政 区内大学等

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

・ ●●●

第3章 文化芸術

1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実

【現状と課題】

◆ 現状

本区は森鷗外や樋口一葉、夏目漱石といった文豪たちが居住したことで知られ、現在でも区内には多くの文学史跡があります。また、根津神社や護国寺などの神社仏閣、小石川後樂園や六義園といった大名屋敷に由来する庭園などの様々な歴史的資源が存在しています。そのほか、ふるさと歴史館などの地域の歴史や生活文化に親しむことのできる施設や、民間の美術館・博物館も多く、文京シビックホールなど文化芸術に関する催しができる場所もあります。

このような歴史や文化の香り高い環境を活かし、本区では、「文の京文化発信プロジェクト」や著名なオーケストラ等との提携、史跡めぐりなど、区民が文化芸術に親しむことのできる機会の充実を図ってきました。

一方、『文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書（以下「調査報告書」という）』（平成22年3月文京区）では、文化芸術活動に「参加したことがある」27.3%、「鑑賞したことがある」62.3%、「参加したことも鑑賞したこともある」は25.0%となり、「参加したことも鑑賞したこともある」は特に男女ともに60歳代以上で割合が高い結果となりました。

こうしたことより、区民の文化芸術活動がさらに活発なものとなるためには、比較的取り組みやすい「鑑賞」を楽しむことのできる機会の充実が重要な点であると考えられます。

また、現在3割程度となっている「参加」者の割合も高めていく必要があります。調査報告書より、参加も鑑賞もしなかった理由としては「仕事・学業や家事・育児などで忙しいから」が5割を超えています。そして、活動しやすい時間帯には「土日祝日日中（9時～18時）」が最も高く挙げられています。また、今後「参加鑑賞」したい分野としては、「音楽」「美術」「舞台芸術」が高くなっています。

こうしたことから、今後は、これらの点に配慮しながら、文京区の地域特性である大学との連携をはじめ、企業などとも協力しつつ、より「鑑賞」や「参加」のしやすいイベントや講座を設定することが大切です。

また、区内には前述のような文化的、歴史的資源が数多く存在しています。これらの資源を活用することで、地域を知り、区内での文化芸術活動がさらに充実することが期待されています。

◆ 課題

- ① 鑑賞する機会を充実させることが、文化芸術の振興において重要な鍵となります。
- ② 文化芸術活動を楽しむ区民の様々なニーズに対応するために、参加の機会を増やすことが求められています。

- ③ 区内にある様々な歴史的資源にふれるなど、地域の伝統や歴史に親しむ機会を増加させることが求められています。
- ④ 様々な状況にある人が文化芸術活動に親しめるようにしていくことが求められています。

【基本的な方向】

(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実

- ・ 区民の文化芸術鑑賞が充実したものとなるようにするため、音楽や美術、書道など、文化芸術の鑑賞機会を充実し、提供していきます。その際には、ホールや展示会場を用いた鑑賞の機会のほか、公共空間を活用した鑑賞の機会も提供していきます。
- ・ 幼少の頃から文化芸術に親しむことのできる環境づくりのため、親子と一緒に様々な文化芸術にふれられる機会を設けていきます。

(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実

- ・ 区民参加の機会や創造活動を支援するため、文化祭や展示会などの機会を充実し、提供していきます。そして、文京区らしさを活かした、文化芸術の創造と発信を進めていきます。
- ・ 文化芸術活動の活性化や区民の意欲向上のため、成果披露の場を充実していきます。
- ・ 区の特徴でもある大学との連携・協働を有効に進めていくため、各大学の専門分野や得意分野を活かしたイベントや講座を実施していきます。また、大学の施設開放要請も行っていきます。
- ・ 企業との連携・協働においては、企業のメセナ活動や、保有施設の開放の要請などを行うとともに社員の参加も促していきます。

(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実

- ・ 区民が地域の文化や伝統を知り、さらに区の文化芸術活動が盛んになるよう、区内に豊富にある歴史的資源を活用し、史跡めぐりや歴史・伝統に関する講座などの機会の提供・充実を進めていきます。
- ・ 区民がより深く地域の歴史や文化にふれられるようにするため、「文の京ミュージアム ネットワーク」加盟施設との連携において、これら施設めぐりと座学を組み合わせたイベントなどを用意していきます。

(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり

- ・ 様々な状況にある区民一人ひとりの文化芸術活動へのニーズの実現を応援するため、時間や場所など、活動にあたっての制約を除くための配慮と支援を行います。
- ・ 障害のある人もイベントや文化芸術に関する講座に参加できるよう、手話通訳やヘルパーなどの配置を主催者に促していきます。
- ・ 言語の違いを問わず、様々な人が本区の文化や歴史にふれられるよう、区内の文化財を紹介するパンフレットや看板の外国語表記を進めていきます。

【事業例】

(1) 鑑賞の機会と場所の提供・充実

事業名	概要	担い手
文化・芸術鑑賞事業の実施	著名オーケストラなどの楽団、伝統文化・伝統芸能に携わる人と提携し、演奏会や舞台公演を安価かつ分かりやすく鑑賞できる機会を提供する。また、親子でクラシック音楽を楽しむ会などを行い、区民が楽しく、気軽に文化・芸術に親しむ場を設けていく。	行政 指定管理者

(2) 参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実

事業名	概要	担い手
文の京文化発信プロジェクトの推進	文の京の文化発信にふさわしい、演劇や音楽、伝統芸能、美術等の文化事業を開催する自治体や各種団体との協働事業により、区民への幅広い文化芸術鑑賞や参加の機会を提供していく。	行政 NPO法人 文化事業を行う企業等

(3) 地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実

事業名	概要	担い手
(仮) 鷗外記念館の新設	区にゆかりの深い文豪である「森鷗外」の生誕 150 周年に向けて、鷗外の魅力の再発見と新たな交流空間の創出を目的に、作品等の貴重な資料の展示等を行うことを整理した「(仮称) 森鷗外記念館整備検討委員会報告書」(平成 21 年 3 月)に基づき整備を進める。	行政 指定管理者 大学
文の京ミュージアム ネットワークの活用	「文の京ミュージアム ネットワーク加盟館めぐり」など、座学と街歩きを取り混ぜた講座をシリーズで開講する。運営においては、公募区民の講師や運営ボランティアの活用を検討していく。	行政 文の京ミュージアム ネットワーク

(4) だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり

事業名	概要	担い手
講座・講演会等での保育サービスの推進	幼児を持つ保護者の学習活動への参加を支援するため、講座・講演会等の開催時に保育室の設置を促す	行政 指定管理者

事業名	概要	担い手
ホール公演解説講座の開催	ホールで開催されるコンサートや舞台公演等とタイアップした解説講座（音楽鑑賞のための予備知識や聞きどころ、オペラなどのストーリー解説、あるいは、伝統芸能等に関する解説）を開催する。講師については、演奏者本人や伝統芸能の専門家、区内大学教授等に依頼する。講座受講者はコンサートのチケットの割引が受けられるなどの連携を行うことによって、初心者でも気軽に参加できる環境を作る。	行政 指定管理者 大学 伝統芸能等関連団体

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定



2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、区民が文化芸術活動により豊かな生活を送れるよう、関連する様々な情報を収集し、区報やホームページをはじめ指定管理者が発行する機関紙やホームページなどを通して情報を提供してきました。

しかし、文化芸術活動に参加も鑑賞もしなかった理由として、「必要な情報がどこにあるか分からなかったから」が2番目に高くなっていることから、まだ情報提供の取り組みに改善の余地があることがわかります。今後、区民が充実した文化芸術活動を行うことができるよう、現在提供している情報の内容を精査するとともに、情報の提供方法を工夫していくことが重要であるといえます。

特に、情報が無いことを理由に参加も鑑賞もしなかったという回答は、若い世代で割合が高くなっていることから、年代に応じて情報を提供する媒体や方法に配慮と工夫が必要であるといえます。また、情報は提供の仕方や、提供する場所、情報の配置などによってもその効果が変化することから、工夫を重ねていくことが大切です。

さらに、今後は、情報を提供するだけでなく、参加や鑑賞における様々な疑問や悩みに対応できる相談先を強化していくことも必要であるといえます。相談を通じて真に必要な人に必要な情報を届けることができるからです。

こうした、情報提供における工夫や相談体制の充実により、区民の文化芸術活動がより豊かに、活発になるよう努めていくことが必要です。

◆ 課題

- ① 区民に役立つ幅広い情報を提供するため、本区の文化芸術活動に関わっている様々な機関が実施しているイベントや文化芸術に関する講座の情報を収集し、一元管理していくことが求められています。
- ② 幅広い世代にとって分かりやすい、そして取得しやすい情報提供が求められています。
- ③ 文化芸術活動に関連する区民の様々な疑問や悩みに対応できるよう、相談体制を充実していくことが求められています。

【基本的な方向】

(1) 文化芸術関連の情報収集・整理

- ・ 区民の文化芸術活動に有効な様々な情報を収集するため、関係各部署や指定管理者、大学など関係する機関が行っているイベントや文化芸術に関する講座、鑑賞会など、文化芸術関連の情報を幅広く収集します。
- ・ 収集した情報は一元管理し、利用しやすいように整理を行います。
- ・ 文化芸術活動を活発なものとしていくため、区内にある様々な歴史的・文化的資産に関する情報や、地域の人材などの情報収集において区民との連携・協働を進め、区民からの情報提供を募る仕組みをつくっていきます。

(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信

- ・ 幅広い世代にとって分かりやすい情報提供を進めていくため、区報や指定管理者の機関紙、ホームページなどを通じて情報提供を行うとともに、新しい情報媒体も積極的に活用して情報提供を行っていきます。
- ・ 分かりやすく、使いやすい情報提供を進めるため、文化芸術に関する情報を総合的に発信する情報提供サイトの構築を検討していきます。その中では、区や参加者、活動者とが相互に情報をやりとりできる場を設けるよう検討していきます。

(3) 相談体制の整備・充実

- ・ 文化芸術活動に関連する区民の様々な疑問や悩みに対応できるよう、日頃の相談対応においては、区民が利用しやすいようにするため、窓口での対応のほか、電話やメールなどでの対応を指定管理者によって進めていきます。
- ・ また、人々が集まるイベントの際に利用できるような臨時の相談体制を充実させていきます。

【事業例】

(1) 文化芸術関連の情報収集・整理

事業名	概要	担い手
文化芸術関連情報の収集	行政や大学、各種文化施設などが実施する文化芸術関連の講座やイベント、鑑賞会など、文化芸術に関する様々な情報を収集する。また、利用用途に基づき、活用しやすいデータベースに整理する。	行政 指定管理者

(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信

事業名	概要	担い手
文化芸術ネット構築の検討	文化芸術に関する情報を一元化して総合的に発信する情報提供サイトを構築する。イベントをカレンダー形式で表示するなど分かりやすい情報提供のあり方や、区、参加者及び活動者とが相互に情報をやりとりできる場の構築について検討する。	行政 指定管理者

(3) 相談体制の整備・充実

事業名	概要	担い手
文化芸術相談窓口の設置	文化芸術に関する相談対応を、窓口を設置しての面接、電話、メールなど様々な手段を用いて相談業務を行う。	行政 指定管理者

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

・ ●●●●

3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、区内の豊富な歴史的・文化的資産を活用し、史跡めぐりや区民参加オペラといった様々なイベントや、文化芸術に関する講座を実施してきました。そしてそれらを担う人材として、生涯学習司や文の京地域文化インタープリターなど独自の資格を設け、人材育成を行うとともに、文化芸術分野の活性化を目指してきました。

また、初心者を含め、様々な区民のニーズに対応できるよう、バラエティに富んだイベントや文化芸術に関する講座を実施してきました。

しかし、調査報告書では文化芸術活動に「参加したことがある」27.3%、「鑑賞したことがある」62.3%、「参加したことも鑑賞したこともある」は25.0%となり、参加したことのある区民の割合は約3割となっています。

こうした状況より、本区の文化芸術分野がさらに活発になっていくためには、まず、文化芸術活動への区民の鑑賞を促進し、文化芸術を楽しむ区民の裾野を広げていくことが重要であるといえます。そして、関わる区民の増加や初心者の増加とともに、継続して参加や鑑賞を行っていく人や団体の育成や、文化芸術活動について指導にあたり、継承したりできる人材の育成と発掘、活用へと、次第に文化芸術活動を行う人々の層を鑑賞から参加へと高めていくことが必要であると考えられます。

また、そのためには、歴史的・文化的資源の発掘と保存も重要となります。そうした資源は、遺跡から発掘される文化財や著名人が遺した物だけでなく、区民の家庭にある資料等も貴重な資源となり得ます。区内に存在する貴重な歴史的・文化的資源について、幅広く発掘し、保存していくことが必要です。

◆ 課題

- ① 文化芸術活動を楽しむ人々を増やし、裾野を広げながら活性化していくことが求められています。
- ② 文化芸術活動に携わっている人や団体を支援して、活動者の増加を促していくことが求められています。
- ③ 本区の伝統や文化、その他文化芸術分野について教え、継承していくことのできる人材の育成が求められています。
- ④ 育成した人材や地域に存在する人材を活用し、経験や知識を地域に還元していくことが求められています。
- ⑤ 区内に存在する様々な歴史的・文化的資源の発掘と保存を進めていくことが求められています。

【基本的な方向】

(1) “楽しむ人”づくりの推進

- ・ 文化芸術活動を楽しむ区民の裾野を広げ、文京区の文化力を向上させるため、初心者を対象に、入門教室を用意し、文化芸術活動を楽しむ人づくりを推進していきま

す。

- ・ 普段から文化芸術作品にふれ、生活の中で文化芸術を身近に感じることができるよう、行政の関連施設や指定管理者の施設などの公共空間を活用した作品展示を進めていきます。
- ・ 区民が文化芸術の分野へ興味を持つ機会を増やすため、文京区在住又は文京区にゆかりのある芸術家の活動を紹介していきます。

(2) “活動する人・団体” への支援

- ・ 社会教育関係団体等が、相互に連携を取り、必要に応じて協力し合い活動を活発化する取り組みや内容等の情報交換などを目的に、連絡会設立を検討していきます。
- ・ 主体的な活動を支援していくため、要件を満たす団体を社会教育関係団体として登録し、活動場所の先行予約等においてサポートしていきます。
- ・ 活動の活発化を支援するため、希望する社会教育関係団体を対象に、人材バンクに登録している人材の派遣を検討していきます。

(3) “伝える人” の育成と発掘の推進

- ・ 文化や伝統を教え、継承していく人を育てていくため、人材育成講座を実施していきます。
- ・ 伝統工芸を伝える人の充実を図っていくため、地域にいる人材を「文京区技能名匠者」として認定し、活用していきます。
- ・ そして再び、新たな“楽しむ人”を呼び起こせるようにしていきます。

(4) 人材活用の推進

- ・ 人材の有効活用を進めるため、文化芸術人材バンクを構築し、地域や社会教育団体等からの希望に応じて情報を提供する体制の構築を検討していきます。
- ・ 文化芸術に関する区民プロデュース講座などの実施や発表の場を提供することを通じて、学習の成果を地域や区民に還元していきます。

(5) 文化財の発掘と保存の推進

- ・ 区内にある文化財の保存を進めるため、文化財収蔵庫の整備を進めます。
- ・ 区内の街並みや風景、地域の祭りなどを映像資料として残していくため、家庭内にある映画フィルムを収集し、アーカイブ化していきます。
- ・ 多岐にわたる文化芸術活動を進めていくため、人材や会場などの各種資源の活用においては近隣区との連携・協働も強化していきます。

【事業例】

(1) “楽しむ人” づくりの推進

事業名	概要	担い手
初心者講座の充実	伝統文化や伝統芸能の継承の観点から、小中学生を中心とした講座を開催する。また、年齢に関わらず、初心者がやさしく学んだり体験できる初心者教室の開催を検討する。指導においては、文京区内の各種団体や専門家を活用する。	行政 指定管理者 文化芸術関連団体等
芸術家の活動紹介の実施	区内在住・区にゆかりのある芸術家の活動を紹介し、区民が文化芸術へ興味を持ったり、見識を深めたりする機会とする。	行政 指定管理者 文化芸術関連団体等

(2) “活動する人・団体” への支援

事業名	概要	担い手
社会教育関係団体連絡会の設立	社会教育関係団体等が相互に連携を取り、必要に応じて協力しあいながら活動を活発化する取り組み等の情報を交換することなどを目的に、連絡会設立を検討する。	行政

(3) “伝える人” の育成と発掘の推進

事業名	概要	担い手
生涯学習支援者の活用	地域での生涯学習のリーダーとなる「生涯学習司」、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する「文の京地域文化インタープリター」など本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーター養成講座を開催し、修了者の活用を図る。	行政 指定管理者

(4) 人材活用の推進

事業名	概要	担い手
区民プロデュース講座の推進	文化芸術に関する区民プロデュース講座などの実施や発表の場を提供することを通じて、学習の成果を地域や区民に還元していく。	行政 指定管理者

(5) 文化財の発掘と保存の推進

事業名	概要	担い手
文の京 8 ミリフィルムアーカイブの構築	文京区内で撮影された 8 ミリフィルムを収集し、アーカイブ化することで、区の様子や区民の生活の様子に関する映像資料を残していく。	行政 指定管理者 NPO法人等

期待される効果 ※期待される効果は第 5 回策定協議会以降に決定

-

第4章 観光

1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

【現状と課題】

◆ 現状

本区は、伝通院や根津神社等の寺社、鷗外や漱石等の文人などに関連する史跡、小石川後樂園や六義園等の庭園など、全国に誇れる歴史的・文化的資源を数多く有しています。区民や区内事業者、区外からの来訪者を対象に実施したアンケート調査*においても、本区について「歴史や文化の香り高いまち」や「大学などの教育機関の多いまち」といったイメージをもつ方が多いことが分かります。

そのような特性を活かし、本区では、区内の博物館・美術館・庭園などと「文の京*ミュージアムネットワーク」を構築してマップの作成や合同イベントの開催をはじめ、大学と連携した講座の開催、史跡や庭園などを巡るまちあるきコースづくりなどの取り組みを進めています。また、「食の文京ブランド 100 選」など、ブランドづくりの取り組みも始まりました。

このように、歴史や文化などの資源を活用したさまざまな取り組みを展開していますが、区民の居住歴や活動エリア等によって、区内の観光資源への意識や“気付き”の程度に差があります。

また、近年、観光の形態のひとつとして体験型観光など学びに対する注目が高まっています。区内には、史跡めぐり、文学散歩など、学びの要素を含んだ魅力的な資源が豊富にあり、本区で歴史や文化を学べる機会づくりに取り組む必要があります。

◆ 課題

- ① 既存の観光資源の周知拡大や発掘・創出とともに、その魅力の向上を図ることが求められます。
- ② 本区の資源の魅力をより高めるため、ストーリー性を持たせた味わい深い観光コースづくりが求められます。
- ③ 本区の特徴である大学等の教育機関と美術館・博物館などとの連携を強化していくことが求められます。
- ④ 歴史的・文化的資源以外にも、本区ならではの「食べる」、「買う」、「体験する」、「交流する」などの魅力も高めていくことが求められます。

* 「文京区観光ビジョン基礎調査」平成 21 年 3 月実施。

* 文京区は「文教の府」と言われ、「文化の香り高いまち」を目指し発展してきた。これに寄せる区民の誇りと愛着を大切に、その上で、区民と区が、時代の大きな変化に適応しつつ、可能性に富んだこの地を、新たな洗練と成熟の段階へとさらに発展させていく都市自治の姿を「文の京」と呼ぶ（「文京区基本構想」平成 13 年より）。

【基本的な方向】

(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ

- ・ 来訪者を迎え入れるにあたり、区民が文の京の魅力に気付くことが重要です。区民自らが地域の魅力を発見・発掘できる取り組みや、その魅力を高める施策を推進します。

(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり

- ・ 区民や来訪者が、本区の資源を楽しむためには、歴史や文化など多種多様な資源の魅力をわかりやすく伝えることが重要です。本区魅力をテーマ別に選び出し、ストーリー性あるコースづくりを進めます。

(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり

- ・ 教育機関が多く立地するという本区特性を活かした「文の京」らしい魅力創出へ向けて、「学び」のネットワークの強化とそれを活かした取り組みの活性化を進めます。

(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築

- ・ 飲食店や文京区伝統工芸会などと連携して、「食べる」「買う」「体験する」に関するブランド力を高めるとともに、商店街の人との交流など、まちあるきの新たな魅力を創出します。

【事業例】

(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ

事業名	概要	担い手
観光スポットの公募	季節の花、鳥、夜景などが見える場所を区民から募集することにより新たな魅力を発掘・整理し、観光スポットとして情報を発信する。	行政 観光協会 地域活動団体
地域磨きの推進	観光資源にまつわる話等について、情報サイトや観光ガイドを通じて示すことにより、資源の持つ価値をわかりやすく伝えていく。	事業者 区民

(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり

事業名	概要	担い手
観光資源を活かしたツアーづくり	区内に点在する観光資源の魅力を最大限引き出すために、歴史や文化、伝統工芸、建物や庭園、食などの観光資源を幅広いテーマに基づいて組み合わせ、文の京の魅力を学んだり、体感したりできる新たな観光ツアーづくりを進める。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 飲食店 ものづくり関連事業者 福祉関連団体 国際交流関連団体 地域活動団体 区民
隣接区等と連携した広域観光ツアーづくり	隣接区と連携し、区域をまたいで巡る観光ツアーづくりや散策マップづくりなどを進める。また、地方都市とも協力・連携を強め、観光イベント等に活かす。	

(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり

事業名	概要	担い手
観光入門・体験等講座の開催	観光が地域に及ぼす効果について、経済団体や区内大学等と連携して講座を開催することで、観光を学び、体験する機会を設ける。	行政 財団法人文京アカデミー 大学 美術館・博物館 地域活動団体

(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築

事業名	概要	担い手
「文京ブランド」の開発促進	区内事業者や区民などと連携し、文京区でしか味わえない、買うことができない「文京ブランド」を発掘・創出し、本区の魅力を区内外に積極的にPRする。	行政 観光協会 観光施設 飲食店 小売店 事業者 地域活動団体 区民

期待される効果

- ・ 本区の魅力に対する区民の新たな気付きの拡大や観光による地域活性化事業への参画が増え、区民の区に対する愛着や誇りが高まります。
- ・ 歴史や文化的な資源にストーリー性を持たせることで、新たな来訪者の誘致が進み、文京区のイメージアップにつながります。
- ・ 教育機関や美術館・博物館などの連携により、「学び」をテーマにした新たな魅力が創出されます。
- ・ 「文京ブランド」の創出などを通じて、商店街や伝統工芸などの事業者の観光に対する意識が高まります。

2 まちあるきや交流のための環境づくり

【現状と課題】

◆ 現状

区民や来訪者が本区の魅力を堪能するために、本区では、誰もが安全・快適にまちあるき等ができる環境や景観を意識したまちづくりに取り組むとともに、人びとの交流の機会づくりにつながるイベントの開催などを進めています。

本区には、地下鉄の他、コミュニティバス「Bーぐる」や、レンタサイクルなど、さまざまな交通手段があり、交通機関の利便性が高いことが区の特徴のひとつとなっています。しかしながら、区民や区内事業者へのアンケート調査において、観光振興で「重点的に取り組むべき施策」として、「区内の移動手段の充実や観光案内板などまちを歩いて楽しめる環境づくり」が2番目に挙げられるなど、交通環境や案内などさらなる充実が求められています。また、1番目には、「歴史的建造物・美しいまちなみなどの保全・活用・創造」となっており、景観も重要視されていることがうかがえます。

また、高齢化の進展やアジアを中心とした外国人観光客の増加などが想定されることから、安心して観光できる環境づくりの重要性が高まっています。

こうしたハード面の環境づくりだけでなく、来訪者と区民の交流の促進など、ソフト面の取り組みも重要です。これまでも「史跡めぐり」や文京花の五大まつり等、区民と来訪者の交流を進める事業を行ってきましたが、近年、人と人との交流などを体験する観光の人气が高まっていることから、まつりやイベントなど体験型観光のニーズに応えていく必要があります。

また、交通利便性の高さやコンベンション施設が多く立地していることに加え、大学等の教育機関が多いという区の特性を活かした「MICE*の誘致」をはじめ、アフターコンベンション（会議・学会等の参加者への観光メニューの提供）の充実など、本区の強みを活かした集客を図っていくことが重要です。

このように、観光しやすい環境づくりを進めていくことが求められていますが、本区の観光資源は、まちなかに点在し、区民の日常生活と密接に関係しているため、ごみの持ち帰りをはじめとした来訪者のマナーなど、区民生活への配慮を求める声も多くあります。

◆ 課題

- ① 来訪者を迎え入れるにあたり、安全・安心であること、バリアフリー化したやさしいまちであるとともに、緑や情緒あるまちなみなどの多様な景観の維持や保全が求められています。
- ② 区内を横断的に移動できる手段やわかりやすい案内の提供などを進めていくことが求められます。

*MICE：会議 (Meeting)、報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際会議 (Convention)、イベント、展示会・見本市 (Event・Exhibition) のこと。会議等の開催により、来訪者の増大や各種分野への経済効果などが期待されます。

- ③ 区民と区民、区民と来訪者の交流を促進し、本区の資源や暮らしの魅力により身近に感じられるような機会づくりが求められますが、その際には観光資源の近くに住む区民の日常生活への配慮も求められます。
- ④ まちあるきの人気が高いこと、まちあるきが地域を知る手段として有効なことから、テーマを持ったまちあるきや地域活性化のためのイベントなどを新たに創出していくことが求められます。
- ⑤ 本区に多く立地する大学等と連携し、イベントや学会などの誘致を進めるとともに、参加者・同伴者が本区の魅力を堪能できる仕組みづくりが求められます。

【基本的な方向】

(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進

- ・ 高齢者や障害者、外国人など、誰もが安全・安心に、かつ快適に区内を巡ることができるよう施設や案内標識の整備を進めるとともに、災害など緊急事態に際しての情報提供の仕組みを検討します。
- ・ 人に地球にやさしい環境を意識したまちあるきなどを進めるとともに、文の京らしい景観も意識した取り組みを進めます。

(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり

- ・ 快適に区内に点在する資源を巡ることができるよう、レンタサイクルの活用を進めるとともに、わかりやすい案内標識の整備などにより回遊性を高める取り組みを推進します。

(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり

- ・ 本区の魅力により深く感じてもらうため、区民相互の交流や観光振興等に取り組む区民と来訪者の交流などの充実に向けた環境づくりを推進します。

(4) 文の京の魅力を活かすイベントの推進

- ・ 区民や来訪者が、本区の資源にふれるきっかけのひとつとして、まちあるきイベントに参加できる機会を増やすとともに、本区独自の歴史や文化などの資源を活かした新たなイベント作りに取り組みます。

(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）

- ・ 区内でのイベントや会議などの開催を増やすため、区内の大学や観光施設等と協力するとともに、本区での開催のメリットを整理し、PRなどによりMICEの誘致を進めます。
- ・ 区内や近隣区で開催される会議等への参加者や同伴者等が、区内観光や食事、買い物で楽しんでいただけるよう情報提供の充実を目指します。

(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり

- ・ まちあるきなどを企画・運営する際は、落ち着いた区民の暮らしが保たれるように配慮するなど、持続可能な観光のあり方を検討します。

【事業例】

(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進

事業名	概要	担い手
「文の京でひと休み」事業の推進	来訪者の回遊性や快適性、利便性を高めるため、観光施設・飲食店・小売店に対し、トイレや休憩スポット、住民ならではの地域情報の提供などを働きかけ、「文の京のひと休み」スポットの充実を図る。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 商店街
文の京のイメージを保つ景観の整備	歴史や文化的な価値を有する建造物や谷根千などの街並みなど、文の京らしさを感じられる景観の維持・保全に努めるよう働きかけるとともに、案内標識等の整備を進める。併せて、情報提供など、地域住民が中心となった景観保全の取り組みの支援を行う。	飲食店 小売店 事業者 地域活動団体 区民

(2) 区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり

事業名	概要	担い手
コミュニティバス「Bーぐる」やレンタサイクルの活用促進	コミュニティバス「Bーぐる」を活用した史跡めぐりの情報発信などの検討を進める。また、Bーぐるやレンタサイクルの利用促進のため、各種観光施設などと連携した割引制度などの導入を進め、区内の回遊性を高める。	行政 観光協会 商店街 交通事業者
わかりやすい案内標識等の整備	区内に点在する案内標識等の集約を図るとともに、わかりやすく統一されたデザインの案内標識等の整備を進める。	事業者

(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり

事業名	概要	担い手
歴史や文化、季節の花などを通じたイベントの開催	地域の歴史的、文化的資源や自然を活用したまつりやまちあるきなどのイベントを通じて、区民と区民、来訪者と区民の交流を深める機会づくりを進める。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 飲食店 小売店
ものづくり体験観光の推進	伝統工芸をはじめ、区内に立地するものづくりの現場を訪れ、直接話を聞き、体験し、交流できる「ふれあい型」観光を進める。	ものづくり関連事業者 地域活動団体 区民

(4) まちあるき等イベントの推進

事業名	概要	担い手
観光ウィーク事業 (未公開スポットの公開等)	普段は公開していない場所や建築物について、日時や入場者数を限定して公開するまちあるきイベントや観光振興に関するセミナーの開催など、観光ウィーク事業をすることにより、文京区の新たなまちあるきの魅力を創出する。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 事業者 飲食店 地域活動団体 区民

(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）

事業名	概要	担い手
MICEに関する情報発信と誘致活動の推進	ホームページやパンフレットなどを通じて、本区が有するMICE関連施設やアフターコンベンションの充実ぶりなど、本区で開催するメリットをわかりやすく発信するとともに、国内外のMICE関係者に対し、積極的な働きかけを行う。	行政 観光協会 観光施設 大学 寺社仏閣 コンベンション施設
アフターコンベンション向けのメニューづくり	大学やコンベンション施設などと連携し、来訪者のニーズに沿ったアフターコンベンションのメニューづくりを進める。	宿泊施設 飲食店 事業者 地域活動団体 区民

(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり

事業名	概要	担い手
まちあるきマナー向上キャンペーンの展開	観光施設に訪れる来訪者などに対して、区民生活への配慮を促すためのキャンペーンを行う。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 地域活動団体 区民

期待される効果

- ・ 年齢や言語の違い、身体的な障害の有無にかかわらず、誰もが安全・快適にまちあるきができる環境が整備されます。また、地球環境にやさしいまち、景観を意識したまちとして国内外に誇れるような取り組みが増加します。
- ・ まちあるきなどを通じて、区民と区民、区民と来訪者との交流が深まり、区に対する愛着が高まるとともに、文京区ファンが増加します。
- ・ 区民や来訪者が、それぞれに関心のあるテーマに合わせて、気軽にイベントに参加できる環境が整備されます。
- ・ 区内で開催される会議やイベントなどが増加し、来訪者数や区内での消費額の伸びにつながります。
- ・ 来訪者が地域の住環境等に配慮することにより、区民生活と共存した持続可能な観光が展開されます。

3 観光まちづくりのための情報発信

【現状と課題】

◆ 現状

観光においては、本区を「知ってもらうこと」が最も重要な課題のひとつです。これまで本区では、観光ガイド「おさんぽくん」などのリーフレットの発行やホームページ、文京区観光インフォメーションを通じた情報発信に加え、区の魅力を体験するイベントの開催や観光グッズの販売など、さまざまな方法で情報発信を行ってきました。しかし、来訪の目的や来訪者の年代などで求める情報は多種多様であるため、そのニーズに合った情報発信の重要性が高まっています。

本区には、国の文化財に指定されているような貴重な歴史的・文化的資源をはじめ、様々な観光資源が多くあるため、区内に点在する様々な観光資源を見て回ることにより、文京の多様で奥深い魅力をより強く認識してもらえることが期待できます。このようなことから、「文京区には素晴らしい資源が豊富にある」というイメージを確立することが重要です。そこで、区としてのブランド力や各資源とのつながりを強めるための情報発信の強化が、本区の観光振興において重要です。

また、広く本区の魅力を発信するためには、新聞・TVなどのメディアや旅行会社等との連携が不可欠です。イベント開催時には報道機関への情報提供は行っているものの、取り上げてもらうための工夫やニーズにあった情報提供のあり方、これまで連携していない旅行会社等への発信など、新たな取り組みが必要です。

近年、情報通信技術の発展に伴い、その技術を活用した情報発信が盛んになっています。本区では、まちあるきが重要な観光のひとつとなっているため、まちあるきしながら情報を得たり発信したりできる携帯端末など、新たな情報通信技術活用の重要性が高まっています。地域の魅力をより深く、広く発信していくためには、実際にまちあるきした人の感想やその人ならではの楽しみ方など、新鮮な情報を発信することが重要です。区内には、そうした情報の発信者となり得る人材が多くいるため、さまざまな視点から本区の魅力が広く発信されていくことが期待されます。

◆ 課題

- ① 「文京区」のブランド力や知名度を高めるための効果的な情報発信を積極的に展開していくことが求められます。
- ② 来訪目的に応じた情報発信の充実を図るとともに、区民に対する積極的な情報発信が求められます。
- ③ メディアに対する情報発信を積極的に行うなど、TVや新聞などに多く取り上げられるようにすることが求められます。
- ④ ホームページを通じた情報発信の充実、携帯端末など新たな情報通信技術の活用など、情報発信の手段を多様化していくことが求められます。

【基本的な方向】

(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化

- ・ 本区の知名度向上へ向けて、区内の魅力に関する情報を幅広い視点から集約・整理し、積極的に発信するとともに、情報の新鮮さを保ちます。

(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進

- ・ まちあるきを目的とした人、外国人観光客、通勤・通学者など多岐にわたる本区への来訪者に対応するため、それぞれの目的やニーズに合った情報を発信していきます。

(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR

- ・ 本区の旬な情報を効果的に発信していくため、区や事業者、地域団体などがそれぞれの目的や立場に応じて、飲食店や観光施設などから最新の情報を収集するとともに、メディアに対して積極的に情報提供するなど、「文京区」のPRを進めます。

(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進

- ・ 来訪者の多様なニーズに応じた情報を効率的・効果的に発信できるよう、携帯端末の活用など新たな情報通信技術の活用を検討します。

【事業例】

(1) 「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化

事業名	概要	担い手
観光情報データの整理と発信	区内の観光施設、交通、飲食、買い物など幅広い視点に基づいて情報を収集・整理する。また、その情報はHP等を活用して積極的に発信する。その際、様々な利用者ニーズを想定した情報の引き出し方や情報の更新などについて留意する。	行政 観光協会 観光施設 大学 飲食店 小売店
区民特派員や観光モニターを通じた情報収集・発信の推進	観光に関心があり、協力いただける区民などに「文の京の観光まちづくり特派員」や「観光モニター」として活躍してもらい、観光資源やイベント、店舗等に関する情報を各自の視点で収集し発信する仕組みをつくる。	交通事業者 宿泊施設 事業者 国際交流関連団体 地域活動団体 区民

(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進

事業名	概要	担い手
愛好家向け観光情報の発信強化	「歴史が好き」「坂が好き」といった愛好家をターゲットとした情報の整理・発信を進め、区の魅力をPRする。	行政 観光協会 大学 商店街 飲食店 小売店 事業者
外国人向け情報発信の充実	外国人観光客にとって有益な情報を調査・研究し、これらをまとめたマップやパンフレットを作成・配布する。	医療機関 福祉関連団体 子育て支援関連団体 国際交流関連団体 地域活動団体 区民

(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR

事業名	概要	担い手
フィルムコミッションの設立・運営	蓄積された観光情報や関係者のネットワークなどを活用しながら、区内でロケなどに活用できる施設や場所の情報を整理し、TVや映画などの制作関係者へPRする。また、実際の撮影にあたって、事務的処理や撮影が円滑に進むよう、関係機関との調整や情報提供などを行う。	行政 観光協会 観光施設 商店街 飲食店 小売店 地域活動団体

(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進

事業名	概要	担い手
手のひらサイズツール向け情報提供	来訪者が区内を散策しながら、観光施設や史跡等の情報を収集できるよう、携帯電話用観光情報サイトの構築や、QRコード等を活用した情報の提供を図る。	行政 観光協会 事業者

期待される効果

- ・ 「文京区と言えば〇〇」というように文京区と観光資源とのつながりが強まるなど、観光面での区のイメージや知名度が向上します。
- ・ さまざまな目的を持った来訪者、区民、旅行会社などに対して、ニーズに合った新鮮な情報が、迅速に発信できます。
- ・ 新聞社やTVなど、さまざまなメディアを通じて文京区の魅力を知る機会が増え、来訪のきっかけづくりにつながります。
- ・ パンフレットやホームページだけでなく、携帯端末などさまざまな形態で情報の収集、発信ができる環境が整備されます。

4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

【現状と課題】

◆ 現状

来訪者が不安や不便を感じず本区の魅力を堪能するためには、区民や事業者など受け入れる人がおもてなしの心を持ち、まち全体が来訪者をあたたかく迎え入れる雰囲気にあふれることが不可欠です。また、本区の資源や立地を活かした観光による地域振興を効果的・効率的に推進していくためには、区民や事業者・団体など、さまざまな主体が連携することや近隣区と協力することも必要です。

文京花の五大まつり等では、町会・商店街などさまざまな主体が工夫をこらし、来訪者に楽しんでもらえるようにイベントを行っています。また、ふるさと歴史館友の会「まち案内」により、区の魅力を来訪者に伝える活動が続けられています。

こうした取り組みは行われているものの、区民へのアンケート調査から来訪者に対する「おもてなし」の状況をみると、来訪者受け入れの取り組みは「特になし」とする人が約6割と高く、「あいさつや道案内などを行うよう心がけている」という人は15%程度に留まっています。また、今後、高齢者や外国人の来訪者が増えることが想定されているため、バリアフリー化やメニュー等の多言語表記など、高齢者や外国人に対するおもてなし環境の向上に向けた取り組みの必要性も高まっています。

また、本区は、生涯学習が盛んで、区の歴史や文化などに関する人材育成などの取り組みが進んでおり、観光の場面でも活躍が期待される人材は豊富にいます。そのため、今後、学生や地域団体などの幅広いネットワークづくりや連携した取り組みを地域の枠を超えて展開していくことが期待されます。事業を推進する際は、常に事業の目的や目指す成果などを意識するとともに、この計画に掲げている事業を社会経済情勢の変化や来訪者のニーズの変化に応じて、適宜見直していくことも重要です。

◆ 課題

- ① 来訪者に対し、区民が本区の魅力をきちんと伝えることができるようにするため、人材の育成や学びの機会づくりが求められます。
- ② 地域で活動する団体・人材の発掘を進めるとともに、区民、商店街、教育機関など区内のさまざまな主体が連携する体制を整えることや、個々の特徴を活かした活躍の場づくりが求められます。
- ③ 区民や事業者、地域活動団体などの観光振興に対する意識を醸成するなど、ホスピタリティを高めることが求められます。
- ④ 区、観光協会、地域活動団体などさまざまな団体が、それぞれ主体的に活動することに加え、組織や地域の枠を超えて協力・連携しながら取り組んでいくことが求められます。

【基本的な方向】

(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成

- ・ 来訪者が本区の魅力を十分に堪能できるよう観光ガイドの育成を進めるとともに、区民自らが区の魅力を楽しみ、その魅力を発信できるよう、教育機関等と連携しながら生涯学習の講座を推進します。

(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用

- ・ 地域で活躍する団体・人材の掘り起こしを図るとともに、区民、商店街、教育機関など、さまざまな主体が観光による地域振興に積極的に携わる機会づくりを進めます。

(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成

- ・ おもてなしの心に溢れるまちを目指し、区民や事業者などさまざまな主体の意識の向上を図るとともに、次代を担う人材の育成を進めます。

(4) さまざまな主体が連携して取り組む体制づくり

- ・ 観光イベントやまちあるきなどの企画・運営において、組織や地域の枠を超えたネットワークづくりを進め、協力・連携して事業に取り組みます。

【事業例】

(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成

事業名	概要	担い手
観光まちづくり人材コーディネート事業	イベントの開催やまちあるきガイドなど観光振興を行う団体の活動に対して、新たに参加したい人と団体とのマッチングを行うなど、活動支援を行うことにより、観光による地域の活性化を促進する。	行政 財団法人文京アカデミー 観光協会 大学 商店街 国際交流関連団体 地域活動団体 区民

(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用

事業名	概要	担い手
「観光サポーター店」の認定	トイレの利用や地域の観光案内などができる店舗を「観光サポーター店」として認定するとともに、マップ等の作成により広くPRし、来訪者に対するホスピタリティを高める。	行政 観光協会 商店街 飲食店 小売店 事業者

(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成

事業名	概要	担い手
おもてなし向上講座の開催	区民や事業者に対し、おもてなしの必要性をはじめ、身に付けることが望まれる対応や取り組みなどに関する講座を開催する。	行政 観光協会 観光施設 商店街 飲食店 小売店
店舗や観光施設での多言語表記の推進	飲食店や小売店、観光施設に対して、メニューや商品説明、施設案内などを多言語表記するよう働きかける。	宿泊施設 交通事業者 事業者 国際交流関連団体 地域活動団体 区民

(4) 様々な主体が連携して取り組む体制づくり

事業名	概要	担い手
観光による地域活性化事業推進のネットワークづくり	区、観光協会、観光事業者、区民など、観光による地域活性化に携わる主体が協力・連携して取り組みを進めるためのネットワークづくりを進める。	行政 観光協会 大学
隣接区とのパートナーシップの強化	区境を越えたまちあるき観光コースづくりなど、隣接区と協力・連携して実施する事業を積極的に推進するため、隣接区と密に情報交換するなどして、パートナーシップの強化を図る。	商店街 事業者 地域活動団体 区民

期待される効果

- ・ 区民の区の歴史や資源に関する知識などが深まるとともに、それらを大切にしている心が醸成されるなど区に対する愛着や誇りが高まります。
- ・ 区民が、来訪者に区の歴史や資源などに関する知識を、誇りを持って説明するとともに、困った人に手を差し伸べるなど、ホスピタリティにあふれたまちにつながります。
- ・ 行政や地域活動団体などさまざまな主体が協力・連携しながら、地域や組織の枠を超えた取り組みが増加します。

第5章 国際交流

1 国際理解を進める機会づくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区には、2010年（平成22年）1月1日現在、92カ国7,276人の外国人が居住しています。10年前に比べて約1.3倍増加し、区民全体の3.7%を占めています。地球規模で人やモノ、情報等の交流が進み、本区においても外国人が増えている状況であり、その特徴として、区内の大学等で多くの留学生や外国人研究者が学んでいることが挙げられます。こうした中、本区では、区民の国際理解を進める取り組みとして、英語観光ボランティア育成講座や区内の大学との連携による外国語講座を実施するなど、様々な学習機会を提供しています。また、小・中学校では、総合的な学習の時間の活動などにおいて、国際社会のしくみや異文化を学ぶための国際理解教育を行っています。さらに、小・中学校の全学年にAET（英語授業助手）を派遣し、小学校では英語を用いたコミュニケーション能力の向上を図り、中学校では英語運用能力の向上を図っています。

また、調査では、区民の海外経験について、これまでに外国へ行ったことが「ある」と回答した人の割合が78.7%となり、回答者の大半が海外経験をしていることがわかります。多くの区民が外国とふれあう機会や経験を持つ今日、小・中学校での国際理解教育や、各種の講座のさらなる充実を通じて、区民全体が国際理解を深め、国際社会の一員として世界に目を向け、外国人を受け入れる意識を共有していくことが必要です。

◆ 課題

- ① 国際理解に関する各種の講座を、対象とする区民（児童・生徒・学生・社会人等）、テーマ、目標を明確にし、効果的に実施していくことが求められます。
- ② 区内の名所・旧跡など歴史・文化資源をはじめ、本区の魅力を外国人に伝えていくことが求められます。
- ③ 区内の大学の人材や施設を活用しながら、国際理解に関する講座を実施するなど、大学、事業者、国際交流団体等と協働していくことが求められます。

【基本的な方向】

（1）国際理解の推進

- ・ 留学生等の外国人や、海外経験の豊富な区民が参加するなどの方法により、区民が国際理解を進めるための機会を提供し、外国人を受け入れる意識の醸成を図ります。
- ・ 区民が海外経験を伝える機会を行政がコーディネートするなど、区内の人材が活躍できるような国際理解の場づくりを推進します。

(2) 多様な文化を学べる機会の充実

- ・ 区内の大学の外国人研究者等を講師に招くなど、質の高い講座等の実施をさらに推進します。
- ・ 日本の歴史や文化、先端技術等に関心を持つ外国人に対し、区民等が主体となり、本区の様々な魅力を伝えていくことを目指します。

(1) 国際理解の推進

事業名	概要	担い手
区民と外国人の情報交換の場の創出	区民、外国人、国際交流団体等が集まり、区民の海外経験などテーマや話題を設定し、関わりのある外国人を招いて意見交換するなど、情報の交換とともに交流を深める場をつくり、国際理解の推進を促す。	行政 国際交流団体 区民 外国人等
小・中学生に対する国際理解推進事業	学校以外の場でも子どもたちが国際理解を進めるための事業を行い、コミュニケーション能力の育成や多様な文化への理解向上を図る。	行政 国際交流団体 区民 外国人等

(2) 多様な文化を学べる機会の充実

事業名	概要	担い手
国際理解を推進する講座の企画・開催	外国人講師等を招き、衣食住に関する伝統文化や民族音楽など、世界の国々の文化への理解を区民に深めてもらえるような講座を行う。	行政 大学 国際交流団体 外国人等
区内産業と連携した交流・ネットワークづくり	区内産業の先端技術等を外国人や海外に向けてPRすることを目的として、事業者の国際交流ネットワークを構築し、外国人等が見学・学習できる事業などを企画・開催する。	行政 事業者 国際交流団体 外国人等

期待される効果

※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

- ・ ●●●●

2 国際交流を進める機会づくり

【現状と課題】

◆ 現状

本区では、区民と外国人の交流と相互理解を進めるため、文化交流を目的とする「国際交流フェスタ」や、外国人向けの観光案内を目的とする「英語観光ガイドツアー」など、様々な国際交流事業を実施しています。また、区民等の主体的な活動により、国際交流が図られるなど、様々な分野・団体などで交流が行われています。

本区の海外都市の交流として、ドイツのカイザースラウテルン市と姉妹都市提携を結び、ホームステイ生徒交換や市民の相互訪問など、市民が中心となった交流を行っています。さらに、日本と地理的に近い中国や韓国などのアジア諸国の都市との交流も進められています。

その一方で、区民にとって、どのような交流活動が行われているのか、また、どのように参加したらよいかの伝わりにくく、具体的な活動に結び付けにくいという問題が指摘されています。区民が主体となる国際交流をさらに活発に行うためには、情報の発信を充実させるとともに、区内の学校や大学などとの連携を進め、国際交流の機会を増やしていく必要があります。

◆ 課題

- ① 国際交流活動に携わりたいと考えているものの、方法がわからないという区民や外国人のために、そのきっかけとなる情報や機会を提供していくことが求められます。
- ② 国際交流に関する事業を区や区民等が主体的に継続して行うため、国際交流団体、区民、大学、事業者等の連携の仕組みをつくることが求められます。
- ③ 国際交流に関心を持つ区民を、国際交流を担う人材として育成・支援することが求められます。
- ④ 区民と外国人とが共に気軽に利用でき、集うことができるスペースを設けることが求められます。
- ⑤ カイザースラウテルン市や海外都市との交流を一層推進するため、区民に交流の内容を広く知らせ、参加を図ることが求められます。

【基本的な方向】

(1) 交流の機会の拡充

- ・ 国際交流に関する情報を収集し、区民に広く発信する方法を検討します。
- ・ 国際交流に関連する団体や区民等の連携を推進するとともに、情報や人材の交流を促進し、交流機会の充実を図ります。
- ・ 国際交流団体や区民等が、主体的に国際交流事業を継続できるよう、行政等が支援する仕組みを検討します。

(2) 交流を支える人材の育成及び支援

- ・ 区の歴史や文化を外国人に伝える人材として、各種の講座を受けた区民が主体的に活動できる仕組みを検討します。さらに、国際交流を担う次代の人材として、小・中・高校生を育成する方法を検討します。
- ・ 留学生や研究者などの外国人が、国際交流を担う人材として活躍できる仕組みを検討します。

(3) 交流拠点の充実

- ・ 区民も外国人も気軽に集い、国際交流を進められるスペースについて、既存施設の有効活用などの視点から検討を進めます。
- ・ 国際交流事業の実施にあたり、事業者の施設を利用させてもらうなど、事業者との協働を推進します。

(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化

- ・ カイザースラウテルン市や他の海外都市との交流について、交流の活性化を図る方法や、多くの区民に知ってもらうための情報発信の手法を検討します。
- ・ 区民にとって関心の高い分野で先進的な取り組みをしている都市との交流について、検討を行います。

(1) 交流の機会の拡充

事業名	概要	担い手
国際交流団体への支援	国際交流団体への情報提供や、交流の機会づくりの支援等を行うとともに、団体間での協力・連携に向けた取り組みを促す。	国際交流団体 区民 行政等
国際交流イベントの企画・開催	「国際交流フェスタ」をはじめ、国際交流イベントを国際交流団体等と連携して企画・開催し、区民と外国人の交流と相互理解を図る。	行政 国際交流団体 大学 区民 外国人等

(2) 交流を支える人材の育成及び支援

事業名	概要	担い手
(仮称)国際交流サポーターの育成と支援	区等が実施する人材育成事業「地域文化インタープリター養成講座」や「英語観光ボランティア育成講座」の修了者等について、国際交流を担う区民として、国際交流の機会での活動を促進する。	行政 区民 国際交流団体 外国人等
外国人の人材活用	在住期間が長い外国人が、新たに来日した外国人の支援を行うなど、地域における外国人支援の担い手として活動する取り組みを推進する。	行政 外国人 区民 地域活動団体 国際交流団体等

(3) 交流拠点の充実

事業名	概要	担い手
交流拠点の充実	国際交流団体や区民、外国人、大学、事業者、行政等の連携により、国際交流に関する各種の活動や情報収集・発信等を行う場として、国際交流の拠点づくりに向けた取り組みを推進する。	国際交流団体 区民 外国人 大学 事業者 行政等

(4) 姉妹都市等、海外都市との交流の活性化

事業名	概要	担い手
姉妹都市との市民交流活動の推進	姉妹都市カイザースラウテルン市との交流を充実させるため、市民同士の交流の場づくりなどの新たな手法の検討し、持続可能な取り組みを推進する。	行政 区民 国際交流団体 外国人等
新たな海外都市との交流	芸術、文化、スポーツ等を通じて、中国や韓国などのアジア諸国の都市との交流を進める。	行政 区民 国際交流団体 外国人等

期待される効果 ※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定



3 外国人が快適に暮らせる環境づくり

【現状と課題】

◆ 現状

区民と外国人が暮らす環境について、調査では、地域の外国人と「付き合いはない」と回答する割合が最も多く、50.4%となっています。一方、日常生活において多少なりとも外国人との交流があると回答する割合は、29.8%となっています。

地域に外国人が住むことについては、「異文化交流が活発になる」など前向きな回答は合わせて41.6%となっています。特に日常生活において外国人との交流がある区民が、外国人が住むことについて前向きに考えているという結果が見られます。

地域に外国人観光客が訪れることについては、「異文化交流が活発になる」など前向きな回答を合わせると、回答者の57.3%が積極的な捉え方をしています。

調査結果からは、回答者のおよそ半数が、区民と外国人とが地域でふれあい、共に暮らすことに対し、前向きに考えていることがわかります。

本区では、外国籍住民等に対する多言語の支援として、外国語版生活便利帳（日本語・英語・中国語・ハンゲル）を配付し、活用を図っています。そのほか、医療や国民健康保険、保育、防災、観光等の分野で多言語による情報提供を行っています。生活や法律に関する相談については、英語と中国語による相談業務を行っています。

- ・ さらに、日本語習得への支援として、日本語指導を必要とする小・中学校の外国籍児童・生徒に対しては、母国語を話す日本語指導員の派遣を行っています。また、区内では区民の主体的な活動による日本語教室が運営されており、外国人が日本語を学んでいます。

今後は、さらに外国人が快適に暮らせる環境づくりに取り組むとともに、外国人も地域社会の一員として地域活動に参加し、地域活性化の担い手になることが期待されています。

◆ 課題

- ① 外国人が大きな困難を感じずに日常生活を送ることができるよう、生活関連情報や災害等の非常時における多言語対応を進めることが求められます。
- ② 外国人への日本語習得支援を充実させることが求められます。
- ③ 外国人が、地域において区民との交流や各種の活動を行うことができる機会をつくること求められます。

【基本的な方向】

(1) 外国人の暮らしの支援

- ・ 生活情報や観光情報、標識・看板の表示、飲食店等店舗でのメニューなど、情報の多言語化をさらに推進します。
- ・ 病気や災害時に外国人の支援を行う区民の育成・支援など、外国人が安心して生活するための仕組みを検討します。
- ・ 外国籍児童・生徒のほか、家族への日本語習得支援について検討します。

(2) 地域活動への参加促進

- ・ 地域活動に関する情報について、多言語による発信を推進します。
- ・ 町会・自治会などの地域行事について、外国人が参加しやすい仕組みを検討します。
- ・ 外国人の地域活動への参加を支援する区民の育成・支援を図ります。

(1) 外国人の暮らしの支援

事業名	概要	担い手
多言語による情報提供	行政情報をはじめ、各種情報の多言語による提供・表示を推進し、言葉や言語表記による生活不便の解消と、安全・安心などの必要な情報を迅速に分かりやすく入手できる環境づくりを推進する。	行政 国際交流団体 外国人 区民 事業者等
日本語習得の支援	小・中学校や日本語教室等と連携し、効果的な日本語の習得について支援する。	行政 国際交流団体 区民 外国人等

(2) 地域活動への参加促進

事業名	概要	担い手
地域活動センターの活用	町会・自治会及び外国人等が地域で行う国際交流事業の活動拠点として、地域活動センターの活用を促進する。	地域活動団体 外国人 区民 国際交流団体 行政等
外国人の地域活動参加の推進	小・中学校と連携し、子どもを介して外国人世帯に地域活動を周知するほか、地域活動センターを情報拠点として外国人に地域活動を周知し、参加を促進する。	小・中学校 地域活動団体 外国人 区民 国際交流団体 行政等

期待される効果

※期待される効果は第5回策定協議会以降に決定

- ・ ●●●●

Ⅲ 参考資料

- ・ 事業（案）とりまとめ資料

生涯学習 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実			
(1)多様な講座や学習機会の提供・充実			
		●「文京学」講座の企画・実施	文の京で開花した歴史や文化、地勢をはじめとして、多面的に学べる講座を企画・実施する。講座の企画に際しては、例えばふるさと歴史館などと連携して、文豪たちがどのように文京区で生きていたかの足跡をたどることや、文京区検定の実施、文京区の観光グッズ等を発掘するなどの観光的な視点を関連づけることも検討する。
		○●文京アカデミア講座の充実	区民が、地域、文学、歴史・社会、芸術、くらし、語学、健康・スポーツなど、ニーズに対応した多様な分野について学ぶことができるよう、文京アカデミア講座の内容を充実する。また、多くの区民が受講しやすいよう講座の開催日時等の検討を行う。
		○生涯学習一日体験フェアの開催	文京アカデミア講座等の紹介や体験、生涯学習に関する相談や情報提供、生涯学習活動を行う団体等の紹介などを行い、区民に生涯学習の魅力を伝えるとともに、生涯学習活動への参加を促す機会として「生涯学習一日体験フェア」を開催する。
		□人権・環境・平和等を考える啓発セミナーの開催	基本的人権や環境、平和など、区民等への普及啓発が必要なテーマについてのセミナーを開催する。
		○小・中学生のための歴史教室の開催	区内在住、在学の小・中学生を対象に、区の歴史や文化についての教室を開催し、区への興味と愛着心の向上を図る。
		○区民の自主的な区政学習活動の支援	区民を中心とする団体・グループの学習会に区の職員等が出向いて、区の取組みや職務の説明をする「文京お届け講座」など、区政に関して区民の自主的な学習活動の支援を行う。同時に、職員の意識改革、区と区民との協働関係の醸成を図る。
		○□大学等との連携によるキャリアアップ等支援講座の開催	区民が望む資格取得講座の開講を目的に、キャリアアップ等支援講座を区内大学等と連携して実施する。また、経済的支援も行うことで、受講しやすい環境を整備する。
		○大学キャンパス講座の実施	大学の持つ高度、専門的な知的財産や人材を活用し、各大学の得意分野を活かした講座を実施する。また、子育て中の女性の再就職などを目的として、キャリアアップ等支援講座を区内大学等と連携して実施する。そのほか、特別講座として大学学長の講演会などを実施する。
		●□企業連携講座の実施	企業の社員等が講師となって、ビジネスやマネジメントをはじめとした多様な講座の企画・提案を募り、協力、連携して実施する。
		○近隣区との連携強化の検討	本区と隣接する区の住民が、相互に開催する講座の受講やパソコンの使用などができるよう、近隣区との連携事業の検討を行う。

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
	(2)学習や活動ができる環境の提供		
	●区有施設の活用促進	区有施設を活用して、区民等が生涯学習活動を行う場所の提供を検討する。	
	○大学や企業等の施設開放の要請	大学の文化芸術・体育施設や民間企業・団体等の所有する施設の区民への開放を要請する。	
	○学習資材等の貸出しの充実及び有効活用	学習や地域活動に必要な資材や視聴覚学習資料の貸し出し、学習機材の更新を適宜実施する。	
	○アカデミー文京、地域アカデミーの整備	区民の生涯学習活動の拠点として、アカデミー文京、地域アカデミーの施設改修、学習機材等の整備を推進する。	
	○ふるさと歴史館事業の充実	ふるさと歴史館友の会等と協働して、地域の歴史・文化財の紹介と啓発を行う「史跡めぐり」事業を進めるとともに、ふるさと歴史館の展示やプログラム等の充実を図る。	
	○(仮) 鷗外記念館の新設	区にゆかりの深い文豪である「森鷗外」の生誕150周年に向けて、鷗外の魅力の再発見と新たな交流空間の創出を目的に、作品等の貴重な資料の展示等を行うことを整理した「(仮称)森鷗外記念館整備検討委員会報告書」(平成21年3月)に基づき整備を進める。	
	●「誰でも地域アカデミー」制度の創設	区のアカデミー推進を目的に取り組んでいるマンションの集会室などの活動拠点を、区が「私設アカデミー」と認定し、各種活動支援を行うとともに、他の区民等が利用できるようにする。	
	(3)だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり		
	●(仮) ミッドナイト文京アカデミア講座の開催	勤労者等のアカデミア講座等の受講を促すため、区民のライフスタイルに合わせて、深夜(22時)までの時間帯に講座を開催する。	
	●会員募集方法や会員間の連絡手段の仕組みづくり	生涯学習活動を行う団体等が、新たな会員募集や会員間の連絡を効率的に進めるために、情報通信技術(ICT)を活用したメーリングリストなどの導入を検討する。	
	○講座・講演会等での保育サービスの推進	子育て中の親の学習活動への参加を支援するため、講座・講演会等の開催時に保育室の設置を促す。	
	○講座・講演会等でのヘルパー等の設置推進	障害のある人も講座・講演会等に参加できるように、希望者に手話通訳者、視覚障害者ヘルパー等の配置を促す。また、点訳ボランティアを募集し、必要な方へ支援を実施する。	
	○インターネットを活用した文京アカデミア講座等の配信	区民が、時間や場所を問わずに、パソコンから文京アカデミア講座等の受講ができるようにするため、インターネットを活用したe-ネットラーニングシステムによる講座を配信する。	
	○外出が困難な区民への図書宅配サービス	高齢者や障害者など外出が困難な区民を対象に、図書の宅配サービスを実施する。	

生涯学習 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		○文京区インターネット施設利用ネットワークの構築と活用	文京シビックホール、アカデミー文京、屋外運動場、テニスコート、区民会議室、シルバーセンター等の各施設がインターネット上で相互に事業案内・施設予約できるネットワークを構築し、施設の予約状況等の把握や情報連絡を効率的に進める環境整備を推進する。
(4)様々な学習活動を支援する区立図書館づくり			
		□ユニバーサルサービスの充実	図書館への来館が困難な特別な支援を必要としている区民へ、利用の際の介助、対面朗読、資料の宅配等の図書館サービスを図る。
		□多様なテーマへの支援	ビジネス・医療・法律・子育て等の資料や情報の提供を行い、区民の暮らしに役立つ課題解決型図書館の整備を図る。
2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実			
(1)学習情報の収集・整理			
		○生涯学習関連情報の収集・整理	区をはじめ、大学や生涯学習関係団体等の様々な生涯学習に関する情報を収集する。また、区民が学習や活動を活発に行っていくために、活用しやすいデータベースに整理する。
		□区民との協働による情報収集の仕組みづくり	生涯学習に携わることのできる地域の人材などの「地域アカデミー人材情報」を、区民等から収集・整理し、活用を図る。
(2)分かりやすい情報提供			
		●生涯学習情報提供サイトの構築	区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取り組めるよう、生涯学習情報を一元化して、総合的に発信する情報提供サイト(ホームページ)を構築する。サービスメニューとして、様々な生涯学習情報を分かりやすく提供するほか、イベント情報カレンダー、各種情報の検索、メールマガジンの配信、携帯電話からの閲覧対応等を検討する。
		□生涯学習に関する総合情報コーナーの設置	区民がそれぞれのニーズや目的に応じて生涯学習に取り組めるよう、生涯学習情報を一元化して、総合的に紹介するコーナーを設置する。
		○□(財)文京アカデミーによるホームページ等の情報提供メニュー等の充実	(財)文京アカデミーのホームページ等で提供している講座案内、行政関係及び民間施設関連情報の他、機関紙「スクエア」等、提供する情報内容や、講座申込の受け付け(はがき、インターネット)等について、利用者が分かりやすく使いやすいメニューの充実のための取り組みを支援する。
(3)相談体制の整備・充実			
		●生涯学習相談体制の整備	区民が生涯学習や活動を活発に行っていくために、様々な相談に対応できる体制を整備する。

生涯学習 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
	(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり		
		□図書館におけるデジタルコンテンツの拡充	新たなコンテンツを追加し、図書館の情報発信機能を拡大するとともに、区民への読書活動を推進する。
		□図書館資料へのICタグ整備	資料にICタグを貼付し、事務の省力化と利用者サービスの向上を図る。
		□地域と連携した行事の開催	地域資源を有効に活用し、区民と連携を図るための事業を実施する。
3 区民・団体の主体的な活動の支援			
	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり		
		□学習支援サイトの構築	区民が区の生涯学習プログラム等に基づいて学習することをサポートする個人学習システムの構築を行う。メニューとしては、履修報告、ブログ、情報交換掲示板等の設置を検討する。
		○区民プロデュース講座の充実	区民やNPO等団体が企画運営する講座を募集し、実施する区民プロデュース講座の内容を充実する。各講座は、区民等が講師、運営を担い、ボランティアとの協働により実施する。
		○社会教育関係等地域団体の登録促進	区民が中心となって取組んでいる区内の社会教育関係団体について、要件を満たす団体の登録を促進し、自主的な取組みの拡大を促す。
		○地域団体・サークル連絡会の支援	区内で生涯学習活動を行っている地域団体や自主サークル等が、相互に連携を取り、必要に応じて協力し合い、活動を活発化する取組みや情報交換などを目的に連絡会を設置し、その活動を支援する。
		●「こらびっと文京」の充実と活用	区民による自立的な地域公益活動を応援する情報サイト「こらびっと文京」について、団体、サークルの詳しい紹介、連絡システムの構築などを行い、内容の充実とさらなる活用の拡大を推進する。
		□主体的な生涯学習活動の紹介	様々な広報媒体を活用して、生涯学習団体・サークル等が行っている生涯学習の成果や魅力的な活動等を紹介する。
	(2) 活動成果披露の場の充実		
		(3(1)再掲) ○区民プロデュース講座の充実	区民やNPO等団体が企画運営する講座を募集し、実施する区民プロデュース講座の内容を充実する。各講座は、区民等が講師、運営を担い、ボランティアとの協働により実施する。
		●「地域アカデミーウィーク」の創設	各地域アカデミーで行っている地域団体やサークル等の活動を地域へ発表・紹介等する機会として、特定の週などに「地域アカデミーウィーク」を創設し、企画・開催に向けて検討を進める。

生涯学習 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		○発表会・大会等の自主運営化の促進	区内で生涯学習等に関連した取組みを行っている団体等が、自主的に発表会や大会を開催・運営をしていく際の各種支援を行う。
		□「(仮)文の京アカデミーアワード」の開催	区内で生涯学習等に関連した取組みを行っている区民や区内の団体・サークル等が、これまでの取組みの成果として作品等の展示を行い、(仮)文の京アカデミーアワードとして優秀作品等を選定する会を開催する。優秀賞の選定にあたっては、選考委員と来庁者の投票により決定し、区報等で紹介することを検討する。
		□主体的な生涯学習活動の披露の場の提供	生涯学習団体・サークル等が行っている生涯学習の成果や魅力的な活動等を披露する場を提供する。
(3)人材育成の推進			
		○生涯学習支援者の育成	地域での生涯学習のリーダーとなる生涯学習司、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する文の京地域文化インタープリターなど本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーターの養成等、生涯学習支援者を育成する。
		●生涯学習活動団体マネジメント講座の開催	区内で生涯学習活動を行う団体やサークル等の運営者を対象に、団体等の運営やマネジメントのノウハウに関する講座の開催を支援する。
		○青少年リーダーの育成	青少年リーダーによるキャンプ・オーバーナイトウォークなどの企画・運営を行い、参加者(小中学生中心)のリーダーシップの育成を図る。
		○文京アカデミアゼミの開催	文京のまちを理解し、地域活動により意欲を持って地域貢献につながる学習をゼミ形式で自主的に学ぶ「文京アカデミアゼミ」を開催し、文京アカデミー構想の人づくりネットワークの推進や、地域に貢献できる人材育成を図る。
		●文京アカデミー関連資格取得者のネットワーク等づくり	文京アカデミー関連資格である「生涯学習司」等の資格取得者へ各種情報提供を行うとともに、文京アカデミー関連資格取得者のネットワークの形成を図る。また、生涯学習支援者の連携を深めるための会合を開催する。
		○文京アカデミア学習推進委員会の実施	アカデミア講座の計画及び実施に区民が協働できる仕組みをつくることや、学習成果の地域還元を促進する学習機会の創出などを目的として、文京アカデミア講座学習推進委員会を開催する。
		○青少年委員活動への支援	青少年委員への研修会の実施等、青少年委員活動への支援を充実する。
(4)人材活用の推進			
		●□ボランティア登録の充実	講座運営等に関する区民ボランティアの募集を行うなどにより、登録ボランティア数の拡大を推進する。

生涯学習 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		○生涯学習支援者の活用	地域での生涯学習のリーダーとなる生涯学習司、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する文の京地域文化インタープリターなど本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーターの養成講座を開催し、修了者の活用を図る。
		○生涯学習支援者のスキルアップ及び活用	学習支援者のスキルアップを目的とした講座等を実施してスキルアップを図るとともに、「生涯学習一日体験フェア」をはじめとする企画・運営や学習相談会の相談員として活動する機会を提供する。
		○●生涯学習人材バンク活用の検討	生涯学習司等の生涯学習人材情報をデータベース化し、地域からの希望で相応しい人材をコーディネートし、学習の成果を地域に生かしていく事業を展開する。将来的には、地域アカデミーを主体とした住民自主組織への委託も検討する。
		□生涯学習人材バンクの再構築	区民が生涯学習を行うために必要な専門知識や技能を持つ指導者等を、生涯学習に係る人材として登録・活用していく制度を再構築する。

【その他、要検討事業】

- 生涯学習司研究費助成
- 東京大学教育研究科と「文京区の生涯学習基盤経営」について共同経営
- 大学一般教養科目の科目履修生の許可

スポーツ 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
1 スポーツのきっかけづくり			
(1)スポーツに関する情報の発信と相談窓口の設置			
	○●	●● スポーツ関係情報の収集・発信	区民が区内全体のスポーツ情報を手軽に得ることができるよう、公共スポーツ施設だけではなく、民間スポーツ施設やスポーツ団体等の情報も含め、区内のスポーツ関連情報を一元化します。また、保健サービスセンター、医療機関等のスポーツ施設以外の施設や町会、青少年対策地区委員会等の地域団体と連携・協力し、区内のスポーツ情報を広く発信します。
	●	●□ スポーツ専門Webサイトの設置	スポーツ専門Webサイトを立ち上げ、スポーツに関わる様々な情報の収集と発信を行う。各種団体の活動内容、連絡先等、スポーツ開放の参加状況や内容、参加者の声等を紹介するとともに、各種スポーツに関わる最新情報の収集・提供を行う。
	○	○スポーツ総合情報窓口の設置	スポーツ施設等にスポーツ総合情報窓口を設置し、区内全体のスポーツ関連情報に関する様々な問い合わせ等に対応します。
	○	○健康スポーツ相談窓口の設置 (健康センター・体育館)	区民の誰もが、それぞれの体力や身体能力、年齢、技術、目的等に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、安全にスポーツを親しむことを相談できる体制の充実を図る。保健サービスセンターで実施する節目健診などの健康診断にスポーツ相談コーナーを併設する。区内体育館施設に常設スポーツ相談コーナーを設置する。コーナーでは初心者教室やスポーツ団体の案内等も行う
(2)スポーツへ参加する機会の提供			
	●	●□ スポーツ体験教室の開催	区民が気軽にスポーツを楽しめるように、種目別初心者教室に加え、年齢別初心者教室等を実施する。また、開催時間に合わせた指導員の確保や大学との連携等を進め、運営体制を強化を図る。
	●	● 児童が色々なスポーツができる機会の提供	児童が特定種目にとらわれず、様々なスポーツを経験する機会を提供する。
	●	●□ 健康ウォーキングイベントの開催	観光協会等と連携した区内名所旧跡などを回るウォーキングイベント等を通じ、区民の健康づくりを推進する。
	●	● 健康・体力づくりの取組み推進	健康づくり教室を継続実施する。また、高齢者いきいき体力測定会や歩け歩け大会を活用する。水中ウォーキング教室や、障害者の方がレクリエーションスポーツが体験できる教室を開催する。

スポーツ 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
2	スポーツを楽しむ環境づくり		
	(1)スポーツ施設等の整備・充実		
		○スポーツ施設の整備と活用促進	子どもから高齢者はもとより、障害者や子育て世代などの幅広い区民が手軽にスポーツに親しめるような総合体育館を開設する。また、小石川運動場の改修等を推進するとともに、高齢者や障害者、勤労者など、区民それぞれが利用しやすい時間帯やサービス内容等の検討を行う。
		○高齢者・障害者が利用しやすいスポーツ施設づくり	区内スポーツ施設の改修、総合体育館の建設などに際して、バリアフリー化を推進し、高齢者や障害者によるスポーツ施設の利用しやすさを向上する。
		●区立公園の整備・改修の推進	区内の公園等で、気軽にウォーキングやランニングなどのスポーツができる環境づくりを進めます。また、区内の公園に健康器具を設置し、区民の日々の健康への取り組みを促す。
	(2)既存施設等の利活用		
		○区立小・中学校施設等の活用	小・中学校の校庭や体育館などを活用した「スポーツ交流ひろば事業」をはじめとして、区民が手軽にスポーツに親しめるよう区内の学校施設の有効活用と充実を図るとともに、スポーツ開放事業の積極的な展開と推進を図る。
		○区内大学施設等の活用	区内大学や公立小中学校以外の学校との連携協力体制を推進し、区民が手軽にスポーツに親しめるよう大学等施設の積極的な開放に協力依頼する。
		●□コミュニティバス「Bーぐる」のルート充実と活用	コミュニティバス「Bーぐる」と連携協力し、区内主要スポーツ施設へのアクセスルートの拡充を検討する。
	(3)多様なニーズに対応するプログラムの提供		
		○子ども向けスポーツプログラムの提供	各種スポーツ関係団体等と連携協力して、「小中学生スポーツ教室」、「一輪車教室」等、子ども向けスポーツプログラムの充実を図る。
		○様々な世代等のニーズにマッチしたスポーツプログラムの提供	各種スポーツ関係団体等と連携協力して、「健康づくり教室」、「ファミリースポーツデー」等、様々な世代のニーズにマッチしたスポーツプログラムの充実を図るとともに、区内大学と連携協力したスポーツプログラムの実施や「障害者運動会」等、障害者向けスポーツプログラムの充実を検討する。
		□スポーツマンシップを尊重したスポーツプログラムの提供	歴史、文化、伝統を重んじる文京区の地域性を踏まえて、区内に拠点施設や協会がある野球、サッカー、そして柔道等の伝統を尊重し、区民が適切なルールやフェアプレーの精神を学び大切にしながら、みんなでこれらスポーツを楽しめるプログラムの検討を進める。
		○競技力向上プログラムの提供	子どもの発達段階、年齢、区民のライフスタイル等に応じた競技力向上スポーツプログラムの実施を図る。推進に当たっては、体育連盟との協力・連携体制の充実を図るとともに、各種スポーツ関係団体等と連携したスポーツプログラムの実施を検討していく。

スポーツ 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		(4)スポーツを通じた地域交流の活性化	
		○□地域スポーツ団体等の育成及び支援	スポーツ開放事業の積極的な展開と推進、各種スポーツ関係自主グループの育成及び支援などを通じて、地域で活動している各スポーツクラブ育成及び支援を行うことにより、スポーツ活動を通じた仲間づくり、生涯スポーツ活動の基盤づくりを推進する。また、団体・クラブ間の交流・ネットワークの構築を進める。
		○区立小・中学校施設等の活用(再掲)	小・中学校の校庭や体育館などを活用した「スポーツ交流ひろば事業」をはじめとして、区民が手軽にスポーツに親しめるよう区内の学校施設の有効活用と充実を図るとともに、スポーツ開放事業の積極的な展開と推進を図る。
		○東京国民体育大会の開催に向けた取組み推進	平成25年東京国体の開催に向けて、文京区実行委員会を設立し、国体競技の円滑な運営を行う。区内では、レスリング会場(文京スポーツセンター)、サッカー会場(小石川運動場)、デモンストレーション競技(ウォークラリー)、リハーサル大会の実施(レスリング全国大学選手権大会・全国サッカー社会人選手権大会)を予定している。
		○各種区民体育大会等の取組み充実	小中学校体育連盟及び高等学校体育連盟、各種スポーツ関係団体、区内大学等との連携協力体制の充実して、都民体育大会等、各種スポーツ大会への選手の派遣や、各種区民体育大会等の取組みの充実を図る。
		●文の京を感じる健康・スポーツイベントの開催	区内の名所・名跡巡りと同時に健康増進も兼ねるイベントである「(仮)文の京ウォーク&マラソンラリー」や、区民の体力向上と新たな地域型イベントづくりを目的に、区内に150以上ある坂を活用して、参加者が全力で駆け上がるイベントなど、「文の京」を感じる健康・スポーツイベントの検討を行い、開催に向けた取組みを行う。他にも、高齢者水泳大会など、高齢者・障害者スポーツに関するイベント等の開催を検討する。

スポーツ 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
3 スポーツ観戦の魅力向上			
(1)プロスポーツ団体等との協力・連携			
	○プロスポーツ等を親しむ機会づくり		読売ジャイアンツ及び日本サッカー協会、講道館等との連携協力体制の充実を図り、区内の小中学生や区民等を対象に、人気試合観戦チケットの区民枠づくりや、プロ選手及び指導者によるレベルの高いスポーツ指導を受ける機会等をつくり、区民がプロスポーツに親しみを持つ機会づくりを推進する。
	○プロスポーツ観戦等を通じたスポーツ意識と競技力向上		世界レベルの各種スポーツ観戦機会を提供により、スポーツへの興味・関心と区内で行われるスポーツ観戦意識を向上させるとともに、レベルの高い技能等を身近で見ることによる、区内各種スポーツ競技者の競技力の向上を図る。
	●東京ドームとの連携推進		区民に対するチケットの優先販売、年間契約シートの確保等、東京ドームが立地するメリットの区民への享受と、区民の東京ドームへの愛着向上を図る。
(2)スポーツ観戦機会の拡充			
	●スポーツ観戦機会の提供		体育協会加盟団体をはじめ、各種スポーツ関係団体等と連携協力し、様々なスポーツの観戦機会を提供する。また、区内の小中高生、区民が様々なスポーツや障害者スポーツへの認知や理解を深めるため、区立体育館での各種スポーツ観戦機会の提供を検討。
	○地元スポーツ応援の仕組みづくり		教育関係機関等との連携・協力体制を整備し、学校や地域のクラブチームなど、身近なスポーツ団体等の試合観戦や地元チームや地元アスリートを応援できるような仕組みづくりや事業展開を図る。
	○国体等のスポーツ大会等への応援態勢づくり		平成25年東京国民体育大会をはじめとして、区内で開催されるスポーツ大会、区内のチームが参加するスポーツ大会等について、各種スポーツ関係団体等と協力・連携した応援態勢づくりの検討を行う。
	○区内大学スポーツ等の地元応援事業		大学野球をはじめとして、各種学生スポーツの情報提供の充実を図るなど、区内大学と地域との連携協力体制を推進し、各種学生スポーツ等を地域全体での応援態勢づくりの検討を行う。
	□スポーツ応援情報の発信		テレビ、ラジオ、新聞などのメディアとの連携を図り、区内で開催される様々なスポーツ情報や、区内のスポーツ団体の試合などの活動情報の提供を検討・推進する。

スポーツ 事業(案)とりまとめ資料

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
4 スポーツ指導者の育成			
(1)スポーツ指導者等の育成と確保			
	○	○体育指導委員・スポーツリーダーの活用	スポーツの実技指導とスポーツに関する指導・助言等を行う体育指導委員やスポーツリーダーを派遣して、地域スポーツクラブ・団体等の育成および技術向上を図る。
	○	○新たなスポーツ指導者の育成・発掘	小・中学生を対象としたスポーツ教室に区内大学生を指導者として受入れる等、若手スポーツ指導者の活動の場を創出する。また、研修の機会やベテラン指導者との交流の場を設けて若手指導者の相談に対応するなど、若手スポーツ指導者の育成を行う。加えて、地域の中で、新たなスポーツ経験者等の人材を発掘するなど、より多くの質の高い指導者を確保し、多種目の多様なニーズに対応していく。
	○	○多様なニーズに応えるスポーツ指導者の育成	各種スポーツ関係団体、区内大学等と協力・連携して、指導者育成プログラムの検討・開発を行い、スポーツ指導者の充実を図る。また、区外の関係機関とも連携を図って、高齢者や障害者等を対象としたスポーツ指導者や介助者を育成するなど、指導者層を厚くしていく。
	●	●小中学校の部活動の充実と活性化	少年野球、少年サッカー、ミニバスケチームとの連携・協力を図り、各種少年チームと中学校部活指導者との連携により公立小中学校の部活動の充実と活性化を図る。
	●	●小学校体育活動コーディネーターの設置	小学校全体の体育事業、体育的活動プログラム及び計画等を作成し、小学校での適切なスポーツ活動を充実する。
(2)スポーツ指導者の技術等の強化			
	○	○体育指導委員会活動への支援	「子供の体力向上を図る」、「子育て期間中の方々へスポーツの場を提供する」、「中高年層の健康と体力の維持に貢献する」の3つをテーマに地域ボランティア活動を進めている区から委嘱された体育指導委員で組織されている委員会へ、各種情報提供・連絡をはじめとして、様々な支援を行う。
	○	○プロスポーツ指導者等の活用	プロスポーツ団体の指導者等を講師として、少年軟式野球チームや少年サッカーチーム等の指導者を対象に講習会を実施するなど、区内スポーツ指導者の技術等の向上を図る。
	○	○スポーツ指導者研修等の充実	区内で、安全かつ質の高いスポーツを推進するために、指導者へのさらなる技術指導を行うとともに、個々人の年齢、性別、技術レベルやニーズに合わせた対応などを促す研修を充実する。
	○	○区内大学等スポーツの人的資源の活用	区内大学のスポーツ指導者を活用するなど、区内の様々なスポーツ資源を活用して、より一層レベルの高い指導者等を数多く確保するとともに、技術面、メンタル面または対象別等、多面的に捉えたスポーツ指導者研修の機会を増やし、指導者の技術等の向上を図ります。
	●	●スポーツリーダー組織の再編成	スポーツリーダー組織をバランスの取れた年齢構成に再編成するとともに、専門種目の主力指導員としての育成を図る。また、スポーツリーダーが活躍する場の拡充を図る。
	●	●スポーツ交流広場運営委員会の体制強化	管理指導員の人材を確保し、地域に開かれた学校のさらなる推進を図る。また、運営委員会の行政側の管理体制を強化する。

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
1 だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実			
(1)鑑賞の機会と場所の提供・充実			
	○文化・芸術鑑賞事業の実施	著名オーケストラなどの楽団、伝統文化・伝統芸能に携わる人と提携し、演奏会や舞台公演を安価かつ分かりやすく鑑賞できる機会を提供する。また、親子でクラシック音楽を楽しむ会などを行い、区民が楽しく、気軽に文化・芸術に親しむ場を設けていく。	
	●「(仮)アートのある街事業」の推進	シビックセンターの壁面や街の公共空間にアートを展示し、区民が身近にそして自然に芸術に触れる機会を設けていく。また、その場を若手芸術家の育成の場としても活用していく。	
(2)参加・創造・成果披露の機会と場所の提供・充実			
	○文の京文化発信プロジェクトの推進	文の京の文化発信にふさわしい、演劇や音楽、伝統芸能、美術等の文化事業を開催する自治体や各種団体との協働事業により、区民への幅広い文化芸術鑑賞や参加の機会を提供していく。	
	○ふれあいのつどい事業の推進	「クイズぶらりdeさんぽ」などにより、区民が区内にある文化・芸術関連施設、名所・旧跡等の理解を高めるなどの事業を行う。また、事業を通じて、これまでに各種人材育成講座を受講した人材の活動の活性化を図る。	
	○楽器演奏教室の実施	区内在住・在学の中学校・高等学校の吹奏楽部員を対象に、著名オーケストラや吹奏楽団等と提携し、管楽器の楽器演奏教室や模範演奏を行う。	
	○大学や民間施設の利用促進	大学の文化芸術・体育施設、民間団体・企業、寺社仏閣等の所有する施設の利用促進を促す。	
	●「(仮)文の京文化祭」の開催	区内の様々な施設を利用し、区民による文化芸術活動の発表、展示、公演を行う「(仮)文の京文化祭」を開催する。開催においては、「(仮)文化祭実行委員会」を区民等で組織する。	
	○●区民参加型文化・芸術交流事業の推進	演劇やオペラ、歌舞伎を学んだり、写生大会や書初め大会などを通して美術や書道に触れたりなど、文化・芸術に親しむとともに、発表会等を実施し、区民等が交流する参加型事業を推進する。	
	○企業プロデュース講座の実施	社会貢献活動の一貫として、区内等の企業から文化芸術に関する講座の企画・提案を募り、協力・連携して実施する。	

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
(3)地域の伝統や歴史に親しむ機会と場所の提供・充実			
		○ふるさと歴史館事業の充実	史跡めぐりをふるさと歴史館友の会等と協働して、地域の歴史・文化財の紹介と啓発を進めるなど、ふるさと歴史館の展示やプログラム等の充実を図る。
		○「(仮)文の京まち講座」の開催	区民や親子を対象に地域を知る講座を実施し、区民が地域への興味と愛着を持つ機会を設ける。
		○(仮)鷗外記念館の新設	区にゆかりの深い文豪である「森鷗外」の生誕150周年に向けて、鷗外の魅力の再発見と新たな交流空間の創出を目的に、作品等の貴重な資料の展示等を行うことを整理した「(仮称)森鷗外記念館整備検討委員会報告書」(平成21年3月)に基づき整備を進める。
		●区内産業や文化の継承の推進	区内産業を伝えるため、ふるさと歴史館での区内の職人や古典芸能の師匠のリスト公開、区内医療機店の古い医療器具の収集を検討していく。
		●□文の京ミュージアム ネットワークの活用	「文の京ミュージアム ネットワーク加盟館めぐり」など、座学と街歩きを取り混ぜた講座をシリーズで開講する。運営においては、公募区民の講師や運営ボランティアの活用を検討していく。
(4)だれもが鑑賞・参加しやすい仕組みづくり			
		●文化芸術出張教室の実施	書道や茶道、華道などの文化芸術に関連する教室を、小・中学校などに出張して実施する。
		○ホール公演解説講座の開催	ホールで開催されるコンサートや舞台公演等とタイアップした解説講座(音楽鑑賞のための予備知識や聞きどころ、オペラなどのストーリー解説、あるいは、伝統芸能等に関する解説)を開催する。講師については、演奏者本人や伝統芸能の専門家、区内大学教授等に依頼する。講座受講者はコンサートのチケットの割引が受けられるなどの連携を行うことにより、初心者でも気軽に参加できる環境を作る。
		○学習資材等の貸出しの充実及び有効活用	学習や地域活動が活発なものとなるよう、必要な資材や視聴覚学習資料を貸し出す。また、機材を活用してシビックシネマサロンを開催する。
		○講座・講演会等での保育サービスの推進	幼児を持つ親の学習活動への参加を支援するため、講座・講演会等の開催時に保育室の設置を促す。
		○講座・講演会等でのヘルパー等の設置推進	障害のある人も講座・講演会等に参加できるように、希望者に手話通訳者、視覚障害者ヘルパー等の配置を促す。また、点訳ボランティアを募集し、必要な方へ支援を検討する。
		□外国語での文化財案内の推進	区内の文化財を紹介するパンフレットや看板において、外国語(英語、中国語、ハングルなど)での表示を進めていく。
2 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実			
(1)文化芸術関連の情報収集・整理			

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		○文化芸術関連情報の収集	行政や大学、各種文化施設などが実施する文化芸術関連の講座やイベント、鑑賞会など、文化芸術に関する様々な情報を収集する。また、利用用途に基づき、活用しやすいデータベースに整理する。
		□区民との協働による情報収集の仕組みづくり	文化芸術に携わることのできる地域の人材などの「地域アカデミー人材情報」や、区内にある文化的・歴史的資源に関する情報を、区民等から収集・整理・活用を図る。

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
(2) 分かりやすい情報提供と幅広い情報発信			
		●文化芸術ネット構築の検討	文化芸術に関する情報を一元化して総合的に発信する情報提供サイトを構築する。イベントをカレンダー形式で表示するなど分かりやすい情報提供のあり方や、区、参加者及び活動者が相互に情報をやりとりできる場の構築について検討する。
		○□指定管理者によるホームページ等の情報提供メニュー等の充実	指定管理者のホームページ等で提供している講座案内、行政関係及び民間施設関連情報の他、指定管理者が発行する機関紙等、文化芸術・生涯学習・スポーツ等に関して提供する情報内容や、講座申込の受け付け(はがき、インターネット)等について、利用者が分かりやすく使いやすいメニューの充実のための取り組みを支援する。
(3) 相談体制の整備・充実			
		□文化芸術相談対応の設置	文過激術に関する相談対応ができるように窓口を設置しての面接、電話、メールなどの様々な手段を用いて相談業務を行う。
		□各種イベントにおける相談ブース設置の推進	各種イベントにおける相談ブース設置を進める。相談に対応する人材は、区の職員のほか、文化芸術面において指導にあたっている人材等を活用する。
3 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり			
(1) “楽しむ人”づくりの推進			
		●初心者講座の充実	伝統文化や伝統芸能の継承の観点から、小中学生を中心とした講座を開催する。また、年齢に関わらず、初心者がやさしく学んだり体験できる初心者教室の開催を検討する。指導においては、文京区内の各種団体や専門家を活用する。
		□芸術家の活動紹介の実施	区内在住・区にゆかりのある芸術家の活動を紹介し、区民が文化芸術へ興味を持ったり、見識を深めたりする機会とする。
		●(1(1)再掲)「(仮)アートのある街事業」の推進	シビックセンターの壁面や街の公共空間にアートを展示し、区民が身近にそして自然に芸術に触れる機会を設けていく。また、その場を若手芸術家の育成の場としても活用していく。
(2) “活動する人・団体”への支援			
		○社会教育関係等地域団体の登録・活動支援の促進	区民が中心となって取組んでいる区内の社会教育関係団体について、要件を満たす団体の登録を促進し、自主的な文化芸術・生涯学習・スポーツ等の取組みの拡大を促す。
		○社会教育関係団体連絡会の設置	社会教育関係団体等が相互に連携を取り、必要に応じて協力しあいながら活動を活発化する取組み等の情報を交換することなどを目的に連絡会設立を検討する。
		□社会教育関係団体への講師紹介	活動の活発化を支援するため、希望する社会教育関係団体を対象に、人材を紹介できるように人材バンクの設置を検討する。

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		(1 (1) 再掲) ● 「(仮) アートのある街事業」の推進	シビックセンターの壁面や街の公共空間にアートを展示し、区民が身近にそして自然に芸術に触れる機会を設けていく。また、その場を若手芸術家の育成の場としても活用していく。
		□アートフリーマーケット開催の検討	区内で活躍する若手の芸術家や職人の支援のため、作品を自由に販売することのできる場の設置を検討する。
(3)“伝える人”の育成と発掘の推進			
		○文京区技能名匠者認定事業の実施	学識経験者、職能団体代表者等で構成される審査会において認定希望者を審査し、適格とされる者を伝統工芸の技能名匠者として認定する。
		○生涯学習支援者の活用	地域での生涯学習のリーダーとなる「生涯学習司」、地域文化の解説・案内のために必要な知識・技術を学び、地域の文化事業に貢献する「文の京地域文化インタープリター」など本区独自の資格取得者、及びアカデミア講座運営のサポーター養成講座を開催し、修了者の活用を図る。
		○文京アカデミアゼミの開催	文京のまちを理解し、地域活動により意欲を持って地域貢献につながる学習をゼミ形式で自主的に学ぶ「文京アカデミアゼミ」を開催し、文京アカデミア構想の人づくりネットワークの推進や、地域に貢献できる人材育成を図る。
		○文化芸術推進委員会の実施	区民自らがイベントや講座の企画・運営に携われるような体制整備を行う。具体的には、講座の企画で、生涯学習司等に広く企画を募集し、各講座の実施において文京アカデミアサポーターの中から講座運営の担当者を公募する。
		○青少年リーダーの育成	青少年リーダーによるキャンプ・オーバーナイトウォークなどの企画・運営を行い、参加者(小中学生中心)のリーダーシップの育成を図る。
		○青少年委員活動への支援	青少年委員への研修会の実施など、青少年委員活動への支援を行う。
(4)人材活用の推進			
		○区民プロデュース講座の推進	文化芸術に関する区民プロデュース講座などの実施や発表の場を提供することを通じて、学習の成果を地域や区民に還元していく。
		○(1 (2) 再掲) ふれあいのつどい事業の推進	「クイズぶらりdeさんぽ」などにより、区民が区内にある文化・芸術関連施設、名所・旧跡等の理解を高めるなどの事業を行う。また、事業を通じて、これまでに各種人材育成講座を受講した人材の活動の活性化を図る。

文化芸術 事業(案)とりまとめ資料

<凡例> ●:分科会や意見シートで出た事業案、○:現行計画より継続する事業案、□:その他の事業案

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
		○文京アカデミアゼミ修了生の登用	文京アカデミアゼミの修了生が、「文京アカデミア1日体験フェア」等の企画・運営や学習相談会の相談員として活動する機会を提供する。
		○●文化芸術人材バンクの検討	文化芸術に関連する指導者を人材バンクに登録し、地域からの希望で相応しい人材をコーディネートし、日頃の鍛錬の成果を地域に生かしていくよう検討する。
		●区内イベントにおける文化芸術団体との協働	イベントの際、カメラや絵の団体による風景の撮影や写生を行う。撮影または写生した作品は、区報やホームページ等を通じて紹介し、イベントの様子を伝える。
(5)文化財の発掘と保存の推進			
		○文化財収蔵庫の整備	文京区では、縄文・弥生・江戸時代などの遺物が数多く出土している。これらの埋蔵文化財は文化財保護法により保存し、有効に活用することが求められている。文化財収蔵庫の設置等整備を計画的に行う。
		○文の京8ミリフィルムアーカイブの構築	文京区内で撮影された8ミリフィルムを収集し、アーカイブ化することで、区の様子や区民の生活の様子に関する映像資料を残していく。
		○近隣区との連携強化の検討	行政境界区域住民の相互の受講や学習財産のトレードなど、近隣区との連携強化の検討を行う。

その他

- 優良企画展の開催
- 区内公園での野原の保存

- 申込のある展覧会の開催、文京美術会の審議を経て実行
- なるべく舗装せず、いくつかは野原にする

分野別計画事業例（案） 観光分野

1 まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出

【事業例】

(1) 文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ

事業名	概要	担い手
夜景スポットの発掘・活用	区内で夜景がきれいに見えるスポットを区民などからの募集などにより発掘・整理し、新たな観光資源として発信する。	行政 観光協会 地域活動団体 事業者 区民
文の京のキャラクターづくり	文京区の観光まちづくりにおけるイメージ強化を図るために、文の京のイメージキャラクターをつくり、パンフレットやイベント、観光グッズなどに活用する。	
まちの愛称づくり (再掲)	区民の区に対する愛着や誇りの醸成などに向けて、路地や坂などの通りをはじめ、目印となるスポットに区民からの公募などにより愛称をつけるとともに、命名者の表彰イベントを開催したり観光マップなどに活用したりするなど、区民が区に親しみを持てる機会づくりを行う。	
文の京ライフスタイルのイメージアップ	歴史や文化、教育機関などに囲まれた文京区ならではの文教都市の生活イメージを「文の京ライフスタイル」として区民と作り上げ発信する。	
文の京のイメージアップキャンペーンの展開 (再掲)	区民の地域に対する誇りや文京区のイメージアップへ向けて、歴史や文化をはじめ、「文の京」を分かりやすく表すイメージの確立を図り、区内外にPRする。	

(2) 文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり

事業名	概要	担い手
文の京の資源を活かした観光ツアーづくり	区内に点在する観光資源の魅力を最大限引き出すために、歴史や文化、伝統工芸、建物や庭園、食などの観光資源を幅広いテーマに基づいて組み合わせ、文の京の魅力を学んだり体感したりできる新たな観光ツアーづくりを進める。	行政 観光協会
バリアフリー観光ツアーづくり	車イス利用者や高齢者などが、不自由や不安を感じずまちあるきなどができるよう、車イス利用者などからニーズを聞くなど、地域の問題発見からバリアフリー観光ツアーづくりまでを連携して進める。	観光施設 寺社仏閣 飲食店 ものづくり関連事業者
外国人向け日本文化体験ツアーづくり	茶道や礼儀作法、武術、建築、庭園など、新旧問わず、外国人の関心が高い日本らしさを感じられる歴史や文化などを体験できる外国人向けのツアーづくりを進める。	福祉関連団体 国際交流関連団体 地域活動団体
隣接区と連携した広域観光ツアーづくり（再掲）	隣接区と連携し、区域をまたいで巡る観光ツアーづくりや散策マップづくりなどを進める。また、地方都市とも協力・連携を強め、まちあるきや観光イベント等に活かす。	区民

(3) 「学び」の要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり

事業名	概要	担い手
区民向け観光講座の開催（再掲）	<p>区民の観光まちづくりに対する意識の醸成や知識の向上を図るために、区民向けに、区の歴史や文化などの観光資源、観光まちづくりの取り組みなどに関する講座を開催し、観光に関して学べる機会を増やす。</p> <p>※要検討：他分野、アカデミア事業との兼ね合い</p>	<p>行政 財団法人文京アカデミー 大学 美術館・博物館 地域活動団体</p>
「文京アカデミア」の充実（再掲）	<p>区内の大学と連携し実施している講座「文京アカデミア」に観光まちづくりに関する講座を増やし、観光に関して学べる機会を増やす。</p> <p>※要検討：他分野との兼ね合い</p>	
大学等との共同研究の推進（再掲）	<p>区内に立地する大学等の教育機関の協力の下、観光まちづくりの推進に向けた地域の強みや弱み、取り組むべき課題などについて、現地調査や地域住民とのワークショップなども交えながら共同で研究を進める。</p>	
「文京ミュージアム・ネットワーク」の活動促進	<p>「文京ミュージアム・ネットワーク」の連携を強化し、ネットワーク参加者で新たな連携事業の展開などを図り、歴史や文化の拠点としてのイメージ向上を図るとともに、活動の活発化を図る。</p> <p>※要検討：他分野などとの兼ね合い</p>	

(4) まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築

事業名	概要	担い手
「観光グッズ（文京みやげ）」「文の京ブランド」	区内事業者や区民などと連携し、文京区でしか味わえない、買うことができない文の京のらしさを感じる観光グッズや文の京ブランドを発掘・創出し、ホームページや区内小売店等において販売するとともに、区内外に積極的にPRする。	行政 観光協会 観光施設 飲食店 小売店 事業者 地域活動団体 区民
「食の文京ブランド100選」の活用促進	「食の文京ブランド100選」を活用したスタンプラリーなどの取り組みを続けつつ、来訪者増加や区内回遊性の向上に繋がるような活用策を検討・実施する。	
観光施設と飲食店・小売店との連携強化	観光施設や飲食店、小売店などとの連携を強化し、マップの作成や案内の提供、来訪者向けの休憩スペースの提供、イベントの開催など観光まちづくりの取り組みを進める。	

2 まちあるきや交流のための環境づくり

【事業例】

(1) 安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進

事業名	概要	担い手
快適なまちあるきを支える施設の整備	来訪者の回遊性や快適性、利便性を高めるため、商店街の空き店舗や観光施設などに、来訪者が休憩やトイレ、地域の情報収集などができる環境を整備する。 また、区内の事業者などに対して、来訪者へのトイレの提供を働きかけるとともに、来訪者にトイレ利用を提供している店舗などを記載したトイレマップを作成・配布するなどの取り組みを進める。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 商店街 交通事業者 医療機関 飲食店
歩行者天国の実施	来訪者が安心・安全にゆっくりと観光を楽しむことができるよう、土日や休日など来訪者が増える時間帯に限り、観光施設付近やまちあるきコースなどへの車両の通行を規制するなど、歩行者専用道路を設ける。	小売店 事業者 地域活動団体 区民
バリアフリー化の推進	国や東京都と連携しながら、道路や交通機関、観光施設、店舗などのバリアフリー化を進めるとともに、関係者へ働きかけを行うなど来訪者がまちあるきなどを行う際の安全性や快適性を高める。	
文の京のイメージを保つ景観の整備	歴史や文化的な価値を有する建造物や谷根千などの街並みなど、文の京らしさを感じられる景観の維持・保全のための建物や看板などの景観の整備を進める。 また、勉強会や情報提供など、地域住民が中心となった景観保全の取り組み支援などを行う。	
案内標識等の統一化	来訪者がまちあるきなどを行う際、道案内の分かりやすさや景観の向上を図るため、区内に点在する観光案内標識等の統一化を進める。	
地球環境にやさしい取り組みの推進	店舗などにおける簡易包装やライトダウンなどの取り組みの働きかけをはじめ、カーボンオフセット付お土産などの取り組みなど、事業者の地球環境にやさしい取り組みを支援するとともに、そのような取り組みをPRする。	
防災や医療に関する情報提供	来訪者が、震災にあたり急病になったりした場合に避難や治療が安全かつ迅速にできるよう、警察や消防、医療機関などとの連携を強化し、防災や医療に関する情報の収集・発信、帰宅困難者の	

	対応策の検討などを進め、安全なまちをPRする。	
健康フレンドリー店舗の推進（健康配慮）	飲食店などが、食事制限等を行っている人向けにメニューを開発・提供するなど、事業者の健康に配慮した取り組みを支援するとともに、そのような取り組みをPRする。	

（２）区内の回遊性を向上させる誘導の仕組みづくり

事業名	概要	担い手
「Bーぐる」の活用	区内の回遊性向上や利用者の利便性向上等のために、コミュニティバス「Bーぐる」の運行や情報発信などを見直すとともに、Bーぐるの一日乗車券購入者に対する観光施設入場料等の割引特典サービス提供など、各種観光施設などと連携した事業の充実を図る。	行政 観光協会 商店街 福祉関連団体 交通事業者 事業者 地域活動団体 区民
レンタサイクルの拡充	レンタサイクルの貸出や返却など利用に伴う利便性の向上や新たなレンタサイクルの検討を行い、拡充を図る。	
まちの愛称づくり（再掲）	まちあるきや観光マップなどに活用するために、路地や坂などの通りをはじめ、目印となるスポットに愛称をつける。	
交通に関する案内の充実	利用者の視点に立って、バスや鉄道、レンタサイクルなど区内の交通機関等に関する情報を収集・整理し、観光パンフレットやマップ、ホームページなどを通じて幅広く提供する。	
交通機関へのバリアフリー化の働きかけ	公共交通機関に対し、バリアフリー化の働きかけを行うなど、来訪者が区内を移動する際の安全性や快適性を高める。	
各交通機関のネットワーク強化	来訪者の区内移動の利便性や安全性を高めるために、区内の公共交通機関と協力・連携を強め、乗り継ぎや案内などの充実を図る。	

(3) 区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり

事業名	概要	担い手
歴史や文化を通じて住民同士の交流を深めるイベントの開催	地域の歴史的、文化的資源を巡ったり、地域の歴史や由来などを学んだり体感できるイベントを通じて、地域住民同士の交流を深める機会づくりを進める。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 飲食店 小売店 ものづくり関連事業者 地域活動団体 区民
文京区らしさを感じる風景などを活かしたPRの展開	観光写真コンクールの優秀作品や区内の名所や風物詩などを描いた伝統工芸士の作品を活用して、ハガキなどを制作し、区長の対外的なPRの場での配布や転入してきた区民への配布などを通じて文京区を広くPRする。	
食をテーマにしたイベントの開催	区民や来訪者の声をもとに、区内でしか味わえないような飲食店や小売店などの逸品を発掘するとともに、新たに創出し、逸品の食べ歩きや健康や食育をテーマにしたイベントなど、食をテーマにしたイベントを開催する。	
ものづくりの現場体験ツアーづくり	伝統工芸をはじめ、区内に立地するものづくりの現場を訪れ、直接話を聞いたり体験できるツアーづくりを進める。	

(4) まちあるき等イベントの推進

事業名	概要	担い手
「観光の日」の創設	「観光の日」を制定し、区内一斉まちあるきイベントや観光講座、観光振興や観光まちづくりに関するイベント等を開催し、観光まちづくりに対する区民の意識を醸成したり、観光のまちとしてのイメージアップを図る。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 アミューズメント 関連事業者 事業者 飲食店 地域活動団体 区民
文京区版オープンハウスの開催	普段は一般に公開していない建築物について、日時や入場者数を限定して公開するまちあるきイベント（オープンハウス）を開催する。	
食べ歩きツアーの開催	飲食店マップなどをもとに、区内の飲食店などを食べ歩いて巡れるまちあるき形式のイベントなどを開催する。	

(5) MICEの誘致（アフターコンベンションの充実と誘致）

事業名	概要	担い手
MICEに関する情報のデータベースづくり	区内の教育機関、コンベンション施設、宿泊施設、交通、飲食店等をはじめ、アフターコンベンションに活用できる観光資源など、多岐にわたる情報をタイムリーに提供できるよう、区内の教育機関や観光施設などと連携して情報収集・発信の仕組みづくりを進める。	行政 観光協会 観光施設 大学 寺社仏閣 コンベンション施設 宿泊施設 飲食店 事業者 地域活動団体 区民
MICEの誘致活動の推進	国内外のMICE関係者に対し、ホームページやパンフレットなどを通じて、本区が有するMICE関連施設やアフターコンベンションの充実ぶりなど、本区で開催するメリットをわかりやすく発信するのに加え、積極的な働きかけを行う。	
MICE推進へ向けた大学等とのネットワーク強化	MICEの誘致やアフターコンベンションの推進へ向けて、情報共有や情報発信などに関して区内の大学やコンベンション施設などと連携して取り組むためにネットワークを強化する。	
アフターコンベンション向けのプログラムづくり	学ぶ、見る、聞く、食べるなどのテーマ、所要時間、国籍など様々なニーズに沿って本区を楽しむことができるアフターコンベンション向けのプログラムづくりを進める。	
MICEに併せた区民等によるイベント等の開催支援	MICE参加者向けに、区民などがアフターコンベンションの企画としてまちあるきイベントなどを開催することに対して支援する。	

(6) 区民生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり

事業名	概要	担い手
まちあるきマナー向上キャンペーンの展開	観光施設に訪れる来訪者などに対して、落ち着いた区民生活への配慮を促すためのキャンペーンを行う。また、そのようなエリアに居住する区民と一緒にあって観光まちづくりに取り組むための協力関係を築く。	行政 観光協会 観光施設 寺社仏閣 地域活動団体 区民

3 観光まちづくりのための情報発信

【事業例】

(1)「文京区」の知名度向上へ向けた情報発信の強化

事業名	概要	担い手
観光情報データベースの整備	区内の観光施設、交通、飲食、買い物など幅広い視点に基づいて情報を収集・整理し、データベース化する。その際、様々な利用者ニーズを想定した情報の引き出し方や情報の更新などについて留意し、整備する。	行政 観光協会 観光施設 大学 飲食店
映像作品や文学作品情報のデータベースの整備	映画やTVなどの映像作品、文学作品などに登場してきたところを作品名や作家、内容、地域、施設など様々な視点で整理しデータベース化する。	小売店 交通事業者 宿泊施設
区内に伝わる言い伝え等のデータベース化	区民などから、区内に古くから伝わる言い伝えなどを募集し、テーマや年代、地域などごとに分類しデータベース化する。	事業者 国際交流関連団体 地域活動団体
観光地図の充実	区内の観光資源や交通、トイレ、休憩所、通り名など来訪者に有効な情報を記載した観光地図を作成するなど、地図を充実させる。	区民
観光インフォメーションセンターの充実	文京シビックセンターに開設している「観光インフォメーションセンター」で提供する情報の充実など、インフォメーションセンターとしての機能を強化する。	
観光ウェブサイトの充実	来訪者のニーズに基づいて、区や観光協会のホームページのコンテンツやアクセシビリティを見直し、内容の充実を図る。	
フェノロジーカレンダーの作成	季節の花やお祭りなど、四季を感じられる写真を掲載したフェノロジーカレンダーを作成し、区民などへ配布する。	
観光ハガキの作成	現在、観光協会などを通じて販売しているポストカードに加え、フォトコンテスト入賞作品や伝統工芸士の作品等を使ったハガキを作成・販売する。	
ガイドブック等の発行	区民や来訪者に向けて、区の観光施設や歴史・文化、イベントなどに関する情報を掲載するガイドブックや定期刊行物などの冊子を発行する。	
旅行代理店等に対する情報発信の強化	観光情報に関するデータベースやガイドブックなどに蓄積している情報を活用し、旅行代理店等に対して、旅行商品のパンフレットや販売等に活用できるタイムリーな情報を定期的に発信する。	

区民特派員や観光モニターを通じた情報収集・発信の推進	観光に関心のある区民などを「文の京の観光まちづくり特派員」や「観光モニター」として任命し、観光資源やイベント、店舗等に関する情報を各自の視点で収集し発信する仕組みをつくる	
留学生ネットワークを活用した情報収集・発信（再掲）	区内の大学等に留学している留学生や留学生の有するネットワークから、外国人観光客のニーズや効果的な情報発信の方法についての助言を受け、それらの情報を外国人の受け入れ促進策に活用する。 また、留学生を通じて、本区のPRを国外へ展開する。	
シティセールスの展開	歴史や文化など「文の京」のイメージを使って文京区を観光地として国内外にPRし、誘客を図る。	
文の京のイメージアップキャンペーンの展開（再掲）	区民の地域に対する誇りや文京区のイメージアップへ向けて、歴史や文化をはじめ、「文の京」を分かりやすく表すイメージの確立を図り、区内外にPRする。	
区民ならではの楽しみ方の発掘・発信	地域の住民だからこそ知る文の京の良さを来訪者が体感できるよう、区民や在勤者などが普段の生活で感じている「文京区の楽しみ方」を発掘し、発信する。	

(2) ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進

事業名	概要	担い手
来訪者や在勤者向け食をテーマにしたマップの作成・配布	区内で働く人や観光で訪れる人などへ向けて、料理の種類、地域、値段などのカテゴリーをはじめ、多言語メニュー表記をしている店舗や健康に配慮したメニューを提供している店舗など様々な視点で情報を整理したランチマップなど、食をテーマにしたマップなどを作成・配布する。	行政 観光協会 大学 商店街 飲食店 小売店
区民向け観光情報発信の強化	区民の観光まちづくり意識や区に対する誇りの醸成へ向けて、本区の魅力に関する情報を区報や区のホームページ、文の京イメージアップキャンペーンなど様々な手段を通じて、積極的に発信する。	事業者 医療機関 福祉関連団体 子育て支援関連団体
障害者や高齢者向けマップやパンフレットの作成	交通や施設に関するバリアフリー情報など、障害者や高齢者などにとって役立つ情報をまとめたバリアフリーマップやパンフレットを作成・配布する。	国際交流関連団体 地域活動団体
小さな子ども連れ観光客向けマップやパンフレットの作成	授乳やおむつ交換できる場所、ベビーカーでも通りやすい道、子ども連れでも入りやすい店舗や施設など、小さな子どもづれの来訪者にとって有益な情報をまとめたマップやパンフレットを作成・配布する。	区民
外国人向け情報発信の充実	多言語表記している施設や外国人の好む観光施設、お土産など、外国人観光客にとって有益な情報をまとめたマップやパンフレットを作成・配布する。	
姉妹都市（ドイツ）向け観光情報の発信	文京区が姉妹都市を結んでいるドイツのカイザースラウテルン市に対して、文京区の歴史や文化、食、交通などに関する情報を積極的に発信し誘客を図る。	
留学生ネットワークを活用した情報収集・発信（再掲）	区内の大学等に留学している留学生や留学生の有するネットワークから、外国人観光客のニーズや効果的な情報発信の方法についての助言を受け、それらの情報を外国人の受け入れ促進策に活用する。 また、留学生を通じて、本区のPRを国外へ展開する。	

(3) メディアの有効活用による「文京区」の積極的なPR

事業名	概要	担い手
フィルムコミッションの設立・運営(再掲)	観光情報データベースや関係者のネットワークなどを活用しながら、区内でロケなどに活用できる施設や場所の情報を整理し、TVや映画などの制作関係者へPRする。また、実際の撮影にあたって、事務的処理や撮影が円滑に進むよう、関係機関との調整や情報提供などを行う。	行政 観光協会 観光施設 商店街 飲食店 小売店 地域活動団体
メディアを活用した観光情報発信の強化	TVや新聞、雑誌など、様々なメディアに対して文の京の魅力やイベント情報などに関する情報を積極的に発信する。	
TV番組や記事等と連携した取り組みの推進	TV番組や雑誌記事などに文京区が取り上げられるのにあわせ、観光協会のホームページなどを通じて取り上げられたスポットを紹介したりするなど、TVなどをきっかけとした来訪を促すための取り組みを推進する。	

(4) 情報通信技術を活用した情報発信の推進

事業名	概要	担い手
携帯電話向け観光情報サイトの構築	来訪者が区内を散策しながら、観光施設や店舗、イベントなどに関する情報を収集・発信できるような携帯電話向けのウェブサイトを構築する。	行政 観光協会 事業者 地域活動団体 区民
携帯端末(スマートフォン)向けアプリケーション開発の推進	交通や地図、歴史・文化、お土産、まちあるきなど、区内を散策する際に役立つ情報を収集・発信できるアプリケーションの開発に繋がる民間企業や区民など取り組みを支援する。	
携帯端末を活用したスタンプラリー等の開催	あるテーマに基づいて、携帯端末を通じて情報を収集しながら区内の観光施設や店舗などを巡り、スタンプを貯めるスタンプラリーなどを開催する。	

4 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

【事業例】

(1) 文の京の魅力を伝える人材等の育成

事業名	概要	担い手
区民向け観光講座の開催（再掲）	区民の観光まちづくりに対する意識の醸成や知識の向上を図るために、区民向けに、区の歴史や文化などの観光資源、観光まちづくりの取り組みなどに関する講座を開催し、観光に関して学べる機会を増やす。 ※要検討：他分野、アカデミア事業との兼ね合い	
「文京アカデミア」の充実（再掲）	区内の大学と連携し実施している講座「文京アカデミア」に観光まちづくりに関する講座を増やし、観光に関して学べる機会を増やす。 ※要検討：他分野との兼ね合い	行政 財団法人文京アカデミー 観光協会
ボランティア活動の推進支援	イベントの開催やまちあるきガイドなど観光まちづくりを行う団体の活動に対して活動支援を行ったり、活動に参加したい人と団体とのマッチングを行うなど、観光まちづくり活動を促進する。	大学 商店街 国際交流関連団体
留学生等向け文京区の歴史・文化講座の開催	区内に立地する大学等で学んでいる留学生や在住外国人が、本区についての理解を深め、本区のファンになってもらえるよう、区内の歴史や文化などの観光資源に関する講座を開催する。	地域活動団体 区民
文京区の歴史・文化に関する研究活動の促進	地域住民と協力して地域の歴史や文化などを研究する研究者などに対し、商店街の空き店舗を活用した活動拠点の支援を行うなど、地域の歴史や文化に関する研究を促進する。	

(2) 観光まちづくりに携わる団体・人材の発掘と活用

事業名	概要	担い手
観光イベント等の企画・運営への区民や観光まちづくり団体等の参画促進(再掲)	イベントやまちあるきの企画・運営など、観光まちづくりを進めていくための事業を、区民や観光まちづくり団体、事業者などが主体的に活躍できるように、参画できる機会を増やす。	行政 観光協会 商店街 飲食店 小売店 事業者 地域活動団体 区民
観光まちづくり団体等の活動支援	区内で活動する観光まちづくりの団体が、主体的に様々な事業を企画・運営したり、新たな観光まちづくりの取り組みへの参画が活発になっていくような仕組みづくりを行う。	
観光まちづくり推進ネットワークづくり(再掲)	区、観光協会、事業者、観光まちづくり団体、区民など、観光まちづくりに携わる主体が協力・連携して取り組みを進めるためのネットワークづくりを進める。	
観光提案事業制度の創設	区民や事業者などから、観光まちづくりの推進のためのイベント開催や人材育成などに関する企画を募集し、提案者が中心となって推進する仕組みづくりを進め、観光まちづくりの取り組みを推進する。	
「観光サポーター店」の認定	来訪者に対して、トイレの利用や地域の観光案内などができる店舗を「観光サポーター店」として認定するとともに、来訪者へPRし、来訪者に対するホスピタリティを高める。	
フィルムコミッションの設立・運営(再掲)	観光情報データベースや関係者のネットワークなどを活用しながら、区内でロケなどに活用できる施設や場所の情報を整理し、TVや映画などの制作関係者へPRする。また、実際の撮影にあたって、事務的処理や撮影が円滑に進むよう、関係機関との調整や情報提供などを行う。	

(3) 文の京全体としてのホスピタリティの醸成

事業名	概要	担い手
おもてなし向上講座の開催	区民や事業者に対し、おもてなしの必要性をはじめ、身に付けることが望まれる対応や取り組みなどに関する講座を開催する。	行政 観光協会 観光施設 商店街 飲食店 小売店 宿泊施設 交通事業者 事業者 国際交流関連団体 地域活動団体 区民
おもてなし向上キャンペーンの展開	区民や事業者、観光施設などに対し、来訪者を受け入れる際のおもてなしの心の重要性や受け入れの心構えなどに関する普及啓発を行い、区全体でおもてなしを高めるキャンペーンを展開する。	
外国人向けおもてなしリーフレットの作成・配布	外国人の来訪者特有の困りごと、困っている人への対応方法など、外国人向けのおもてなし向上へ向けたリーフレットを作成し、区民や事業者などへ配布する。	
快適な買い物環境の整備	店舗や観光施設の入口におすすめ商品や施設案内などを掲示するのをはじめ、地域の案内やトイレの提供、店舗等で荷物の一時預かりサービスの提供など、来訪者が区内で買い物しやすい環境づくりを事業者と連携しながら進める。	
店舗や観光施設での多言語表記の推進	英語ガイドボランティアなどと連携しながら、飲食店や小売店、観光施設において、メニューや商品説明、施設案内などを多言語表記するよう、観光施設や店舗等に働きかける。 また、飲食店に対して、東京都のメニュー翻訳サイトの普及啓発を行う。	
学校教育における文京区の歴史・文化等の学習機会の充実	区内の小中学校などにおいて、生涯学習司や地域インタープリターなどが講師となり、生徒に対して区の歴史や文化を伝えるなど、子どもの頃から地域の歴史や文化に触れられる機会を設ける。 また、生徒が日本語・英語でまちあるきガイド養成講座を受けたり、ガイド体験をしたりするなど体験型の学習機会を設ける。	

(4) 様々な主体が連携して取り組む体制づくり

事業名	概要	担い手
観光イベント等の企画・運営への区民や観光まちづくり団体等の参画促進 (再掲)	イベントやまちあるきの企画・運営など、観光まちづくりを進めていくための事業を、区民や観光まちづくり団体、事業者などが主体的に活躍できるよう、参画できる機会を増やす。	
隣接区とのネットワークの強化	区境を越えたまちあるき観光コースづくりなど、隣接区と協力・連携して実施する事業を積極的に推進するため、東京都や台東区、葛飾区などの隣接区と情報交換をはじめとした協力ネットワークを強化する。	行政 観光協会
大学等との共同研究の推進 (再掲)	区内に立地する大学等の教育機関の協力の下、観光まちづくりの推進に向けた地域の強みや弱み、取り組むべき課題などについて、現地調査や地域住民とのワークショップなども交えながら共同で研究を進める。	大学 商店街 事業者 地域活動団体 区民
隣接区と連携した広域観光ツアーづくり (再掲)	隣接区と連携し、区域をまたいで巡る観光ツアーづくりや散策マップづくりなどを進める。また、地方都市とも協力・連携を強め、まちあるきや観光イベント等に活かす。	
観光まちづくり推進ネットワークづくり (再掲)	区、観光協会、事業者、観光まちづくり団体、区民など、観光まちづくりに携わる主体が協力・連携して取り組みを進めるためのネットワークづくりを進める。	

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
1	国際理解を進める機会づくり		
	(1)国際理解の推進		
		●区民と外国人の情報交換の場の創出	区民、外国人、国際交流団体等が集まり、区民の海外経験などテーマや話題を設定し、関わりのある外国人を招いて意見交換するなど、情報の交換とともに交流を深める場をつくり、国際理解の推進を促す。
		●小・中学生に対する国際理解推進事業	学校以外の場でも子どもたちが国際理解を進めるための事業を行い、コミュニケーション能力の育成や多様な文化への理解向上を図る。
		□国際理解に向けた啓発	国や都などと連携して、区民の国際理解を推進する目的で、啓発のための各種広報・イベント活動を行う。
	(2)多様な文化を学べる機会の充実		
		○国際理解を推進する講座の企画・開催	外国人講師等を招き、衣食住に関する伝統文化や民族音楽など、世界の国々の文化への理解を区民に深めてもらえるような講座を行う。
		●区内産業と連携した交流・ネットワークづくり	区内産業の先端技術等を外国人や海外に向けてPRすることを目的として、事業者の国際交流ネットワークを構築し、外国人等が見学・学習できる事業などを企画・開催する。
		●(仮称)パートナーシップによる語学アカデミーの開催	区内に多くある日本有数の大学を活用して、区内大学の研究者や留学生等が講師となり、「語学アカデミー」として、区民等の様々なニーズやレベルに合った語学教室の企画・開催を、大学等と協力・連携して行い、区民や在勤者、区への来街者等の語学意識の向上と受講者のレベルアップ等を実現する。
2	国際交流を進める機会づくり		
	(1)交流の機会の拡充		
		○●国際交流団体への支援	国際交流団体への情報提供や、交流の機会づくりの支援等を行うとともに、団体間での協力・連携に向けた取り組みを促す。
		○●国際交流イベントの企画・開催	「国際交流フェスタ」をはじめ、国際交流イベントを国際交流団体等と連携して企画・開催し、区民と外国人の交流と相互理解を図る。
		□留学生と家庭の交流・ふれあい促進	留学生等の外国人がホームステイ等をするための協力家庭等を募集し、外国人が日本の生活様式などに触れ合う機会を提供する。
	(2)交流を支える人材の支援及び育成		
		○●(仮称)国際交流サポーターの育成と支援	区等が実施する人材育成事業「地域文化インタープリター養成講座」や「英語観光ボランティア育成講座」の修了者等について、国際交流を担う区民として、国際交流の機会での活動を促進する。
		●国際交流の次世代育成	将来の人材育成を目的として、区内の中学生と、日本に在住する外国人中学生との交流会を実施する。日本文化の紹介、体験や区内大学の見学を行う。
		○外国人の人材活用	在住期間が長い外国人が、新たに来日した外国人の支援を行うなど、地域における外国人支援の担い手として活動する取組みを推進する。
	(3)交流拠点の充実		
		●交流拠点の充実	国際交流団体や区民、外国人、大学、事業者、行政等の連携により、国際交流に関する各種の活動や情報収集・発信等を行う場として、国際交流の拠点づくりに向けた取り組みを推進する。
		●国際交流団体の設立・育成	区民、各種団体、区内企業等からなる国際交流推進に向けた任意団体を設立し、国際交流の窓口機能を担う団体として育成する。

<凡例>

●:分科会や意見シートで出た事業例、○:現行計画より継続する事業例、□:その他の事業例

分野別の目標	基本的な方向	事業例(区の実施事情、委員からの意見等)	事業のねらいや実施する内容等のキーワード
	(4)姉妹都市等、海外都市との交流の活性化		
		○姉妹都市との市民交流活動の推進	姉妹都市カイザースラウテルン市との交流を充実させるため、市民同士の交流の場づくりなどの新たな手法の検討し、持続可能な取組みを推進する。
		○●新たな海外都市との交流	芸術、文化、スポーツ等を通じて、中国や韓国などのアジア諸国の都市との交流を進める。
		□海外都市からの視察団受入れ促進	海外都市からの視察団を積極的に受入れ、文京区を世界に向けてアピールする。
		●今年は何年！事業の企画・実施	区民にとって関心の高い分野(子育てや福祉など)で、先進的な取組みをしている海外都市と提携し、物産展など区民が参加しやすい事業などを実施する。区内在住の対象国出身者とも連携して行う。
3	外国人も快適に暮らせる環境づくり		
	(1)外国人の暮らしの支援		
		○□多言語による情報提供	行政情報をはじめ、各種情報の多言語による提供・表示を推進し、言葉や言語表記による生活不便の解消と、安全・安心などの必要な情報を迅速に分かりやすく入手できる環境づくりを推進する。
		○●外国人相談体制の充実	入国・在留・くらし・子育て・教育に関する情報提供・相談受付など、外国語の相談員による生活相談体制を充実する。
		□外国語ボランティアの育成・派遣	区民及び在住外国人による語学ボランティアを登録・育成し、公的機関からの派遣依頼に基づき、通訳・翻訳等を行う事業を推進する。。
		○日本語習得の支援	小・中学校や日本語教室等と連携し、効果的な日本語の習得について支援する。
	(2)地域活動への参加促進		
		●地域活動センターの活用	町会・自治会及び外国人等が地域で行う国際交流事業の活動拠点として、地域活動センターの活用を促進する。
		●外国人の地域活動参加の推進	小・中学校と連携し、子どもを介して外国人世帯に地域活動を周知するほか、地域活動センターを情報拠点として外国人に地域活動を周知し、参加を促進する。
		□町会・自治会等への参加促進パンフレットの作成	町会・自治会への参加呼びかけ、参加方法等を多言語で説明したパンフレットの作成を行う。